

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月29日
【事業年度】	第105期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	理研計器株式会社
【英訳名】	RIKEN KEIKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩澤 忠
【本店の所在の場所】	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号
【電話番号】	03(3966)1121(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員管理本部長 小林 久悦
【最寄りの連絡場所】	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号
【電話番号】	03(3966)1128
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員管理本部長 小林 久悦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (千円)	20,536,734	22,630,654	21,418,109	17,314,508	20,043,638
経常利益 (千円)	3,031,457	2,942,079	2,786,142	1,988,764	3,121,275
当期純利益 (千円)	1,851,467	1,640,751	1,494,717	1,376,414	1,885,760
包括利益 (千円)	-	-	-	-	1,854,354
純資産額 (千円)	20,153,951	20,981,956	21,453,154	22,588,810	24,045,278
総資産額 (千円)	29,622,100	29,566,105	29,159,748	29,950,053	32,673,104
1株当たり純資産額 (円)	855.17	889.41	923.68	972.73	1,035.63
1株当たり当期純利益金額 (円)	81.22	69.59	63.67	59.27	81.22
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.0	70.9	73.6	75.4	73.6
自己資本利益率 (%)	9.8	8.0	7.0	6.3	8.1
株価収益率 (倍)	11.7	9.4	8.3	10.7	8.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,030,471	904,950	2,485,840	3,459,991	1,555,362
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	670,436	666,905	1,185,080	426,471	383,875
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	514,827	708,765	660,957	503,781	365,787
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	5,215,563	4,652,546	5,065,482	7,484,364	8,077,567
従業員数 (人)	780	825	905	927	927
(外、平均臨時雇用者数)	(239)	(247)	(265)	(219)	(234)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第104期及び第105期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第101期から第103期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (千円)	20,135,025	22,128,847	21,035,471	17,150,718	19,703,805
経常利益 (千円)	2,074,338	2,124,960	1,861,950	1,165,303	2,110,305
当期純利益 (千円)	1,292,701	1,429,152	971,225	897,484	1,263,798
資本金 (千円)	2,565,500	2,565,500	2,565,500	2,565,500	2,565,500
発行済株式総数 (株)	23,661,000	23,661,000	23,661,000	23,661,000	23,661,000
純資産額 (千円)	16,710,063	17,332,416	17,396,662	18,074,319	18,951,893
総資産額 (千円)	25,640,030	25,379,206	24,241,396	25,120,163	27,152,555
1株当たり純資産額 (円)	707.83	734.20	747.97	777.13	814.90
1株当たり配当額 (円)	17.00	17.00	20.00	17.00	17.00
(うち1株当たり中間配当額)	(8.50)	(8.50)	(8.50)	(8.50)	(8.50)
1株当たり当期純利益金額 (円)	56.58	60.54	41.31	38.59	54.34
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	65.2	68.3	71.8	72.0	69.8
自己資本利益率 (%)	8.2	8.4	5.6	5.1	6.8
株価収益率 (倍)	16.8	10.8	12.8	16.5	12.8
配当性向 (%)	30.0	28.1	48.4	44.1	31.3
従業員数 (人)	448	511	549	564	569
(外、平均臨時雇用者数)	(173)	(224)	(240)	(191)	(182)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第103期の1株当たり配当額20円には、創立70周年記念配当3円が含まれております。

3 第104期及び第105期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第101期から第103期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

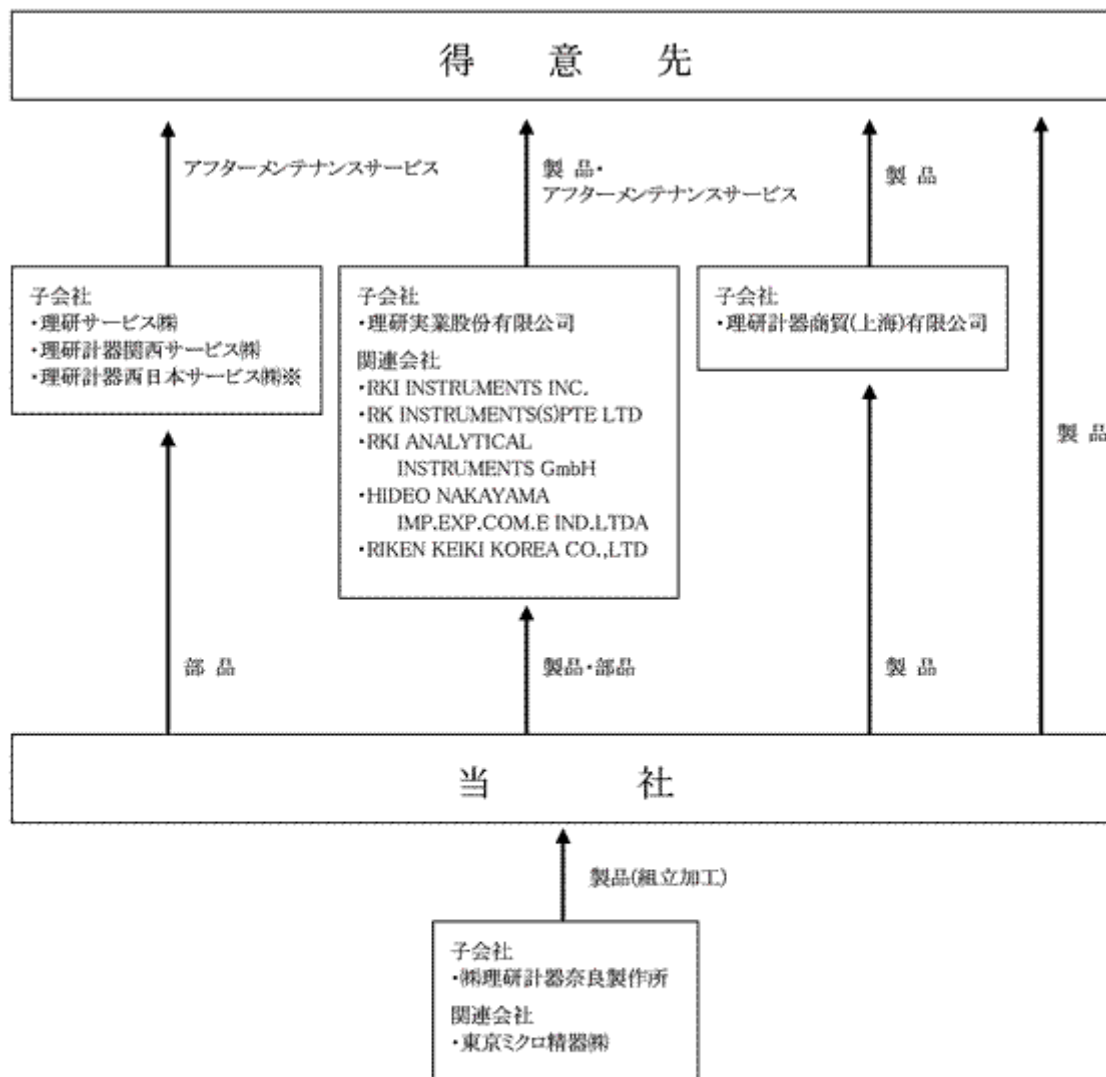
## 2【沿革】

- 昭和9年7月 沢藤電気工業株式会社として家電諸機械の製造販売を目的として設立
- 昭和13年5月 富国機械株式会社と商号変更し、精密機械の製造開始
- 昭和13年11月 理研コンツェルンの一社として、財団法人理化学研究所辻研究室の研究発明した製品の特許実施権を取得し、ガス検定器、光弾性装置の製造・販売を開始
- 昭和14年3月 理研計器株式会社に商号変更
- 昭和27年11月 理研精機光学株式会社を吸収合併
- 昭和36年10月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 昭和45年1月 製造部門拡充のため、奈良工場（奈良県桜井市）の操業を開始
- 昭和46年3月 サービス部門を分離拡充し、理研サービス株式会社を設立（現・連結子会社）
- 昭和47年1月 理研計器九州サービス株式会社設立（平成23年1月 連結子会社理研計器中部サービス株式会社に吸収合併）
- 昭和47年11月 奈良工場を分離し、株式会社理研計器奈良製作所を設立（現・連結子会社）
- 昭和54年6月 理研計器関西サービス株式会社設立（現・連結子会社）
- 昭和57年7月 東京ミクロ精器株式会社に出資（現・持分法適用関連会社）
- 昭和62年9月 理研計器中部サービス株式会社設立（平成23年1月 理研計器中国サービス株式会社、理研計器九州サービス株式会社を吸収合併し、商号を理研計器西日本サービス株式会社に変更）
- 昭和63年1月 理研実業股?有限公司（台湾）設立（現・連結子会社）
- 昭和63年2月 理研計器中国サービス株式会社設立（平成23年1月 連結子会社理研計器中部サービス株式会社に吸収合併）
- 平成2年8月 株式会社理研計器恵山製作所を設立
- 平成5年4月 理研計器北海道サービス有限会社設立（平成22年1月 連結子会社理研サービス株式会社に吸収合併）
- 平成5年8月 RK INSTRUMENTS(S)PTE LTD（シンガポール共和国）設立（現・持分法適用関連会社）
- 平成6年7月 RKI INSTRUMENTS INC.（米国カリフォルニア州）設立（現・持分法適用関連会社）
- 平成7年9月 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
- 平成8年1月 製造部門拡充のため、桶川工場（埼玉県桶川市）の操業を開始
- 平成8年10月 品質管理の国際規格「ISO 9001」の認証取得
- 平成9年12月 環境管理の国際規格「ISO 14001」の認証取得
- 平成20年1月 株式会社理研計器恵山製作所を吸収合併
- 平成21年12月 理研計器商貿（上海）有限公司を設立（現・連結子会社）

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社7社及び関連会社6社で構成され、ガス検知警報機器の製造販売を主な内容とし、さらにこれに係わるアフターメンテナンスサービスの事業活動を展開しており、これらの事業を1セグメントとしております。

事業の過半を占める当該事業の系統図は、次のとおりであります。



※当社子会社である理研計器中部サービス株式会社、理研計器中国サービス株式会社、理研計器九州サービス株式会社の3社は、平成23年1月1日をもって合併し、商号を理研計器西日本サービス株式会社に変更いたしました。

連結子会社及び持分法適用会社は、次のとおりであります。

#### 連結子会社

- 株式会社理研計器奈良製作所
- 理研サービス株式会社
- 理研計器関西サービス株式会社
- 理研計器西日本サービス株式会社
- 理研実業股份有限公司
- 理研計器商貿(上海)有限公司

#### 持分法適用関連会社

- 東京マイクロ精器株式会社
- RKI INSTRUMENTS INC.
- RK INSTRUMENTS(S)PTE LTD

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 または 出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 または 被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 理研計器奈良製作所 (注)2	奈良県桜井市	50,000	ガス保安機器製品及び 電子機器の製造販売	100.0	当社製品の組立配線 役員兼任 2名 土地の賃貸
理研サービス㈱ (注)2	東京都板橋区	24,000	ガス保安機器製品の 保守・点検・整備等の アフターサービス	100.0	当社製品のアフターメンテナンスサービス 役員兼任 2名 事務所の賃貸
理研計器関西サービス㈱	兵庫県尼崎市	10,000	ガス保安機器製品の 保守・点検・整備等の アフターサービス	100.0	当社製品のアフターメンテナンスサービス 役員兼任 1名
理研計器西日本サービス㈱ (注)2	広島市安佐南区	10,000	ガス保安機器製品の 保守・点検・整備等の アフターサービス	100.0	当社製品のアフターメンテナンスサービス 役員兼任 1名 土地・事務所の賃貸借
理研実業股?有限公司	台湾台南県	千NT\$ 30,000	ガス検知器の 販売・修理・工事	100.0	当社製品の販売・ アフターメンテナンスサービス 役員兼任 2名
理研計器商貿(上海) 有限公司	中国上海市	千元 1,191	ガス検知器の 販売・修理・工事	100.0	当社製品の販売
(持分法適用関連会社) 東京ミクログ精器㈱	東京都板橋区	72,000	ガス検知警報器測定器の 製造加工	21.0	当社製品の組立配線
RK INSTRUMENTS (S)PTE LTD	シンガポール	千SG\$ 620	ガス検知警報機器の 販売・アフターサービス	38.7	当社製品の販売
RKI INSTRUMENTS INC.	米国 カリフォルニア州	千US\$ 130	ガス検知警報機器の 販売・アフターサービス	38.5	当社製品の販売 役員兼任 1名

- (注) 1 主要な事業内容欄には、セグメント情報を記載しておりませんので、各社の事業内容を記載しております。
- 2 特定子会社に該当しております。
- 3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
- 4 当社子会社である理研計器中部サービス株式会社、理研計器中国サービス株式会社、理研計器九州サービス株式会社の3社は、平成23年1月1日をもって合併し、商号を理研計器西日本サービス株式会社に変更いたしました。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
全社(注)3	927(234)
合計	927(234)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。  
 2 従業員数欄の(外書)は、嘱託・臨時従業員(年間の平均人員、1日8時間換算)及び人材派遣会社からの派遣社員(年間の平均人員)であります。  
 3 当社グループの事業は単一セグメントであるため、連結会社における従業員数の合計のみ全社として記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
569(182)	35.7	11.7	5,909,711

- (注) 1 従業員は就業人員であります。  
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3 従業員数欄の(外書)は、嘱託・臨時従業員等(年間の平均人員、1日8時間換算)及び人材派遣会社からの派遣社員(年間の平均人員)であります。

### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、理研計器従業員労働組合(平成23年3月末現在の組合員数437名)と全日本金属情報機器労働組合理研計器支部(平成23年3月末現在の組合員数6名)があります。

労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

なお、連結子会社には、労働組合はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

##### 全般の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジア圏を中心とした輸出の増加や生産の持ち直し等により、企業収益は緩やかな回復基調となりましたが、円高の進行や厳しい雇用情勢・所得環境が続くなか、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響は極めて深刻であり、非常に先行き不透明な状況となっております。

当社グループの属する産業防災保安機器業界におきましては、回復基調となった主要顧客の設備投資に支えられ、需要が増加傾向となったことから、年度を通して好調に推移しました。

このような情勢のなかで、当社グループは、生産の合理化による原価低減、徹底した経費の削減、積極的な営業活動の展開、新製品開発への積極的投資、品質管理体制並びにサービス体制の充実に取り組んでまいりました。

これらの諸施策の結果、売上高は200億4千3百万円（前年同期比15.8%増）、営業利益は30億7千6百万円（前年同期比78.6%増）、経常利益は31億2千1百万円（前年同期比56.9%増）、当期純利益は18億8千5百万円（前年同期比37.0%増）となりました。

##### 機種別の売上の概況

機種別の売上の概況は、以下のとおりとなっております。

#### **定置型ガス検知警報機器**

システムコンポーネントの「マルチガス検知警報器」「毒性ガス検知警報器」は、半導体・液晶関連業界を中心とした設備投資の回復等により、売上は好調に推移しました。

この結果、売上高は133億5千9百万円（前年同期比20.5%増）となりました。

#### **可搬型ガス検知警報機器**

鉄鋼・石油業界向け「ポータブル型複合ガス検知器」「パーソナル型ガスモニター」は、主に海外向けに売上は好調に推移しました。

また、半導体業界向け「高感度毒性ガスモニター」も、好調に推移しました。

この結果、売上高は56億3千7百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

#### **その他測定機器**

「自動車排気ガス測定器」は、自動車業界のゆるやかな回復により好調に推移しました。

この結果、売上高は10億4千7百万円（前年同期比8.9%増）となりました。



(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、5億9千3百万円増加し、80億7千7百万円（前連結会計年度比7.9%増）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は15億5千5百万円（前連結会計年度比55.0%減）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3億8千3百万円（前連結会計年度比10.0%減）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、3億6千5百万円（前連結会計年度比27.4%減）となりました。

なお、当企業集団のキャッシュ・フロー関連指標の推移は下記のとおりであります。

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期
自己資本比率（%）	68.0	70.9	73.6	75.4	73.6
時価ベースの自己資本比率 （%）	76.1	52.2	43.0	50.2	50.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	1.3	2.6	1.0	0.8	1.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	51.2	20.4	51.8	64.9	30.6

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

1. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数により算出しております。

3. キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、生産、受注及び販売の状況につきましては、機種別の情報を記載しております。

### (1) 生産実績

機種別	生産高(千円)	前連結会計年度比(%)
定置型ガス検知警報機器	9,275,899	128.9
可搬型ガス検知警報機器	4,082,972	99.2
その他測定機器	968,827	119.6
合計	14,327,699	118.2

(注) 1 金額の表示は、販売価格換算で表示しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注実績

機種別	受注高(千円)	前連結会計年度比(%)	受注残高(千円)	前連結会計年度比(%)
定置型ガス検知警報機器	13,964,339	126.5	2,050,368	141.9
可搬型ガス検知警報機器	5,521,260	103.8	528,104	82.0
その他測定機器	1,094,809	118.2	157,069	143.5
合計	20,580,409	119.1	2,735,541	124.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

機種別	販売高(千円)	前連結会計年度比(%)
定置型ガス検知警報機器	13,359,324	120.5
可搬型ガス検知警報機器	5,637,128	107.1
その他測定機器	1,047,186	108.9
合計	20,043,638	115.8

(注) 1 総販売実績に対し10%以上に該当する販売先はありません。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) 当面の対処すべき課題の内容

今後のわが国経済は、東日本大震災発生による経済への影響が様々な形で顕在化する可能性があると思われま

す。  
産業防災保安機器業界におきましても、東日本大震災の影響はあるものの、景気は回復基調にあり、当社の主要顧客である半導体・液晶関連業界、石油化学業界等の設備投資も改善されつつあります。

このような状況のもと、当社グループは結束力を高め、防災保安機器メーカーとして品質管理体制並びにサービス体制の充実、ユーザーニーズにそった製品開発、生産体制の効率化と省力化による原価低減、経費削減に努めると同時に国内外での積極的な販売活動を展開し、今後の業績確保を図ってまいります。

#### (2) 会社の支配に関する基本方針

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念や当社企業価値の様々な源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保、向上させる者でなければならないと考えております。

一方、当社の株式は東京証券取引所市場第一部において取引されている上場株式であることから、当社の株主は、一般に市場での自由な取引を通じて決まるものであるとともに、会社の方針の決定を支配する者も株主の皆様の意思に基づき決定されるべきものと考えており、また、当社の支配権の移転を伴う買収行為がなされた場合にこれに応じるか否かの判断も、最終的には株主の皆様全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、近時、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強制するおそれのあるもの、取締役会や株主が買収提案の内容等について検討し、あるいは取締役会が代替案を提示するために合理的に必要な時間や情報を提供することのないもの、買収の条件等がその対象となった会社の本源的価値に鑑み著しく不十分または不相当であるもの、買収の対象とされた会社の企業価値の維持・増大に必要な不可欠なステークホルダーとの関係を破壊する意図のあるもの等買収の対象とされた会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

このような買収を行う者は、例外的に当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切と考えております。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する特別な取り組み

当社では、当社の企業価値ひいては株主共同利益の向上のために、次のような取り組みを実施しております。

#### ( ) 中長期的な企業価値・株主共同利益向上への取り組み

当社は、「人々が安心して働ける環境づくり」を経営理念として掲げ、各種爆発事故防止をはじめとし、排気ガス規制、CO<sub>2</sub>測定など環境保全ニーズにも幅広く対応したガスセンサー技術のパイオニアとして社会に貢献するとともに、「安全」を供給する企業としての責務を果たすべく、機器の販売のみならず、販売後の保守・点検及びガスを検知するセンサーの交換など定期的なメンテナンスにも積極的に取り組んでまいりました。その結果、現在、当社の主力製品である産業用ガス検知警報機器は、半導体・液晶、石油化学、建設、電力・ガス、鉄鋼、造船等の幅広い業種にてご利用いただいております。

また当社では、経営方針として、

- a . 技術の開発と経営の合理性から適正な利益を追求し、持続的な発展を目指す
- b . お客様には、高品質の製品と充実したサービスを提供し、安全な環境づくりに貢献する
- c . 株主には、長期的視点に立った企業価値の向上をもって報いる
- d . 取引先には、安定した取引を目指し共存共栄を図る
- e . 従業員には、生活の安定と労働環境の向上をもって報いる

を掲げ、国内のトップメーカーから世界のトップメーカーへの飛躍を目標として日々邁進しております。この目標を達成するため、(ア)競争力(価格・技術・品質)の強化、(イ)販売サービス体制の拡充という2つの観点から次の具体的施策を推進しております。

まず、(ア)競争力強化の具体策としては、自社独自の技術による新製品の開発により「多機能化・小型化」、「操作性・メンテナンス性の向上」、「高信頼性」を実現する製品差別化戦略を推進しており、これにより、価格・技術・品質面での競争力のさらなる強化を目指しております。

次に、(イ)販売サービス体制の拡充については、全国各地に営業所及びサービス会社を配置し、運用面での技術指導から保守点検に至るまでの万全なサービスネットの構築を推進しており、ユーザーニーズをすばやくキャッチアップする体制のさらなる強化を目指しております。

( ) コーポレート・ガバナンスの強化による企業価値・株主共同利益向上への取り組み

当社では、適切な企業集団の形成を図るため、次のとおりコーポレート・ガバナンス体制をとっております。

- a. 当社の取締役会は、7名の取締役からなり、迅速かつ適切な意思決定を行うため、定期的に取り締役会を開催する他、全取締役、執行役員及び各部門長で構成する経営企画会議を毎週開催し、経営・研究開発・生産・販売・品質管理・情報管理を中心とした業務全般に亘る意思決定と業務執行の迅速な対応を図っております。
- b. 執行役員制度を導入し、経営組織の効率化と責任の明確化を図っております。
- c. 当社は監査役制度を採用しております。監査役会は監査役4名で構成されており、内3名は社外監査役であります。監査役は取締役会、経営企画会議その他重要な会議への出席並びに重要文書の閲覧等厳正な監査を実施して、取締役の意思決定の過程及び取締役の職務執行状況についても常に監視する体制となっております。

以上当社では、多数の投資家の皆様に長期的に当社への投資を継続していただくため、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることに役員・社員一丸となって取り組んでおり、これらの取り組みは、会社の支配に関する基本方針の実現に資するものと考えております。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止する取り組み

当社は、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして、平成21年6月26日に開催された当社定時株主総会において株主の皆様にご承認を賜り、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策」を導入しております。

その概要は以下のとおりです。

( ) 本プラン導入の目的

本プランは、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みとして導入するものです。

( ) 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる大規模買付とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、かかる買付行為を行う者を大規模買付者といいます。

( ) 特別委員会の設置

本プランを適正に運用し、当社決定の合理性・公正性を担保するため、特別委員会規程を定めるとともに、特別委員会を設置しております。特別委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行から独立している社外監査役または社外有識者のいずれかに該当する者の中から選任します。

( ) 大規模買付ルールの概要

当社が設定する大規模買付ルールとは、事前に大規模買付者が当社取締役会に対して、必要かつ十分な情報を提供し、当社取締役会による一定の評価期間が経過した後に大規模買付行為を開始する、というものです。

a. 大規模買付者による当社に対する意向表明書・必要情報の提出

大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、大規模買付行為または大規模買付行為の提案に先立ち、大規模買付の内容等を記載した意向表明書を、当社の定める書式により当社取締役会に提出していただき、当社取締役会は、意向表明書を受領した日から10営業日以内に、大規模買付者に対して、大規模買付行為に関する情報（以下「必要情報」といいます。）として当社取締役会への提出を求める事項について記載した書面（以下「必要情報リスト」といいます。）を交付し、大規模買付者には、必要情報リストに従い、必要情報を当社取締役会に書面にて提出していただきます。

b. 当社取締役会による必要情報の評価・検討等

当社取締役会は、大規模買付者が当社取締役会に対し必要情報の提供を完了した後、対価を現金（円貨）のみとする公開買付による当社全株式の買付の場合は最長60日間またはその他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）として設定し、提供された必要情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ開示いたします。

c. 取締役会の決議及び株主総会の開催

当社取締役会は、特別委員会の勧告を最大限尊重した上で、対抗措置発動または不発動等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。また、当社取締役会は、特別委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、特別委員会が発動の決議について株主総会の開催を要請する場合は、当社株主総会を開催することとします。

( ) 大規模買付行為がなされた場合の対応

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として対抗措置はとりません。

ただし、大規模買付ルールを遵守しない場合や、遵守されている場合であっても当該大規模買付行為が会社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断した場合には、例外的に、特別委員会の勧告を最大限尊重した上で、また、必要に応じて株主総会を開催し株主の皆様の承認を得た上で、対抗措置の発動を決定することができるものとします。

( ) 本プランの適用開始、有効期限及び廃止

本プランの有効期間は平成24年6月に開催される当社定時株主総会終結の時までの3年間とし、以降、本プランの継続（一部修正した上での継続を含みます。）については当社定時株主総会において承認可決を得ることとします。

ただし、本プランは、本定時株主総会において承認可決され発効した後であっても、a. 当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、b. 当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

本プランの合理性について（本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて）

当社では、本プランの設計に際して、以下の諸点を考慮することにより、本プランが上記、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものとはならないと考えております。

( ) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。また経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も踏まえたものとなっております。

( ) 株主共同の利益を損なうものではないこと

本プランは、当社株式に対する買付等がなされた際に、当該買付に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、または株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものです。本プランの導入は、平成21年6月開催の当社第103回定時株主総会において株主の皆様のご承認をいただいております。株主の皆様のご意思によっては本プランの廃止も可能であることから、本プランが株主共同の利益を損なわないことを担保していると考えられます。

( ) 株主意思を反映するものであること

本プランは、平成21年6月開催の当社第103回定時株主総会における株主の皆様のご承認をもって発効しており、その導入について株主の皆様のご意向が反映されることとなっております。また、導入後は本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されます。

( ) 独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動は、当社の業務執行から独立している委員で構成される特別委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本プランの透明な運用を担保するための手続きも確保されております。

( ) デッドハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会において選任された取締役により構成される取締役会によって廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

なお、当社では取締役解任決議要件につきましても、特別決議を要件とするような決議要件の加重をしておりません。

#### 4【事業等のリスク】

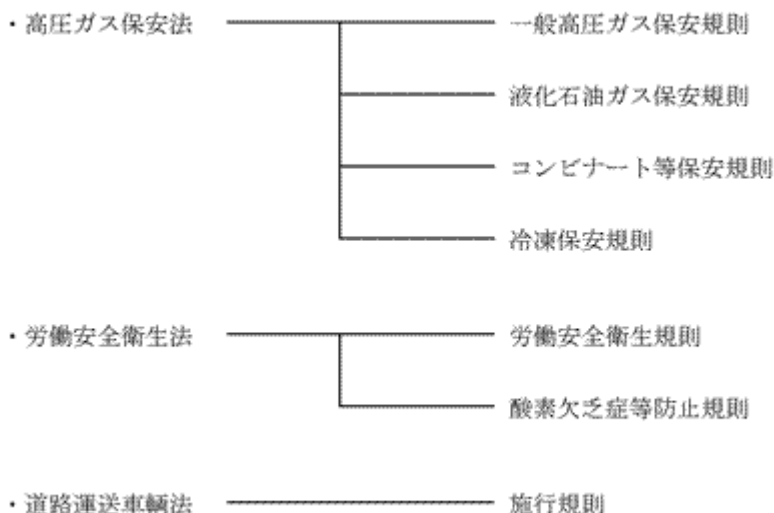
有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 法的規制について

当社グループが取り扱うガス検知警報機器類の設置義務及び保守点検については、主に以下の法的規制があります。

新たな法規制や改廃は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。



##### (2) 製品の欠陥について

当社グループは、品質管理の国際規格に基づく製品製造並びに内部基準による保守・点検業務を行っておりますが、製品の欠陥や製品設置時の調整ミス等に起因する誤作動により、ユーザーに物的・人的損害を与える可能性があります。

また、製造物及び完成作業リスクを対象とした総合賠償責任保険に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にカバーできるという保証はありません。

製造物責任賠償につながるような重大な製品の欠陥や調整作業ミスは、多額の費用や当社グループの評価に重大な影響を与え、業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 研究開発について

当社グループは、電気・物理・化学など幅広い技術力をベースに、ガスセンサーの研究開発から、最先端技術を駆使した新製品の開発を最も重要な経営課題としております。

製品の開発には、ユーザーニーズにそった使用目的・使用場所に応じた新技術開発を行っておりますが、当社グループの経営成績に寄与する保証はありません。

##### (4) 設備投資動向の変動について

当社グループが取り扱うガス検知警報機器の需要は、主にエレクトロニクス・石油化学・船舶業界等の民間設備投資、電力・ガスを含む公共設備投資の動向に左右されます。

よって、経済環境の変化による設備投資の変動は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、創立以来「人々が安心して働ける環境づくり」を永久のテーマとし、電気・物理・化学など幅広い技術力をベースに、センサーの研究開発から、最先端技術を駆使した新製品の開発を最も重要な経営課題としております。

製品の開発には、ユーザーニーズにそった使用目的・使用場所に応じた新技術開発を行っており、世界で最も信頼されるトップブランドとしての地位を維持し続けるように、積極的な研究開発活動を行っております。

### (1) 研究開発目的

- ・ガスセンサーの高機能化（測定原理・対象ガス拡大・インテリジェント化）の研究開発
- ・産業災害（ガス爆発・ガス中毒・酸欠）を防止する製品・システムの開発
- ・環境汚染・公害を防止する製品・システムの開発
- ・各種センサーを応用した新市場向けの製品開発
- ・新技術・各種ソフトを取り入れた新分野向けの製品開発

### (2) 主要課題

- ・高信頼性センサーの確立
- ・製品の小型化・多機能化の追求、操作性・メンテナンス性の向上
- ・新技術・新ソフト・各種通信技術の導入

### (3) 研究開発体制

当社グループの研究開発は、当社の技術開発本部を中心に子会社の技術部門によって推進され、研究開発に係わるスタッフは総従業員数の15.5%に当たり、当連結会計年度における研究開発費は、9億6千2百万円（対売上高比4.8%）であります。

基礎研究については、理化学研究所をはじめ、大学等の研究機関との交流を行い、積極的に基礎技術の向上と先端技術の導入を図っております。

なお、ガスセンサー及びその他のセンサーの研究開発は当社研究部が担当し、新技術及び製品・部品・システムの研究開発は当社技術部が担当し、新製品の開発についてはプロジェクト体制により行っております。

### (4) 研究開発成果

当連結会計年度における主な研究成果は、次のとおりであります。

#### 定置型ガス検知警報機器

- ・半導体、液晶工場向けに、熱分解器搭載小型テーブル式高感度毒性ガスモニター（FP-300AGZ S型）を開発いたしました。
- ・飲料業界向けに、炭酸飲料に充填する炭酸ガスの純度を管理する、屈折率式CO<sub>2</sub>純度計（FI-876型）を開発いたしました。

#### 可搬型ガス検知警報機器

- ・各種作業現場向けに、爆発防止・酸欠・中毒事故防止用の本質安全防爆構造吸引式5成分ポータブルガスモニター（GX-8000型）を開発いたしました。
- ・石油化学工場、半導体工場向けに、中毒事故防止用の本質安全防爆構造吸引式ポータブル特殊ガスモニター（SC-8000型）を開発いたしました。
- ・半導体、液晶工場向けに、ガス検知原理に依存されないユニバーサル構造の、特殊材料ガス漏洩検知用可搬卓上型吸引式スマートタイプガス検知器（TP-70D/TP-70DG型）を開発いたしました。

#### センサー

- ・ポータブル機器搭載用の可燃性ガス爆発下限界濃度測定用に、防爆対応接触燃焼式小型センサー（NC-6215型）を開発いたしました。
- ・ポータブル機器搭載用の100vol%濃度までの可燃性ガス測定用に、防爆対応熱伝導式小型センサー（TE-7515型）を開発いたしました。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下は、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する情報であり、文中に記載する将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、会計上見積りが必要なものにつきましては、合理的な基準に基づき見積りをしております。

### (2) 財政状態の分析

当連結会計年度末の資産につきましては、前連結会計年度末と比較して27億2千3百万円増加し、326億7千3百万円（前連結会計年度比9.1%増）となりました。

流動資産につきましては、受取手形及び売掛金が売上高の増加により9億4千2百万円増加、現金及び預金が6億7千8百万円増加、仕掛品が5億6千7百万円増加、商品及び製品が5億1千4百万円増加しております。

固定資産につきましては、通常の減価償却実施及び震災被害での災害損失等により建物及び構築物が1億9千9百万円減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して12億6千6百万円増加し、86億2千7百万円（前連結会計年度比17.2%増加）となりました。主なものは、支払手形及び買掛金が7億1千3百万円増加、売上高の増加により未払法人税等が6億4千1百万円増加しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して14億5千6百万円増加し、240億4千5百万円（前連結会計年度比6.4%増）となりました。

### (3) 経営成績の分析

売上高は、主要顧客の設備投資が増加傾向となったことから、年度を通して好調に推移し、200億4千3百万円（前連結会計年度比15.8%増）となりました。

営業利益は、全社的に原価低減に取り組んだ結果、売上原価率が前連結会計年度59.7%から当連結会計年度57.2%と改善し、30億7千6百万円（前連結会計年度比78.6%増）となりました。

営業外損益は、主として受取保険金及び配当金の1億4千9百万円の減少、為替差損の1億2百万円の増加により、前連結会計年度2億6千6百万円の利益（純額）から4千4百万円の利益（純額）となり、経常利益は31億2千1百万円（前連結会計年度比56.9%増）となりました。

特別損益は、前連結会計年度2億5千万円の利益（純額）から当連結会計年度1億4千万円の損失（純額）となりました。当連結会計年度の損失は主として減損損失6千万円、災害による損失4千1百万円によるものであります。この結果、税金等調整前当期純利益は29億8千万円（前連結会計年度比33.1%増）と、増益となりました。

「法人税、住民税及び事業税」と「法人税等調整額」を合わせた税金費用は、前連結会計年度の8億6千2百万円から当連結会計年度は10億9千4百万円と、2億3千2百万円増加しました。この結果、当期純利益は18億8千5百万円（前連結会計年度比37.0%増）となりました。



(4) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、業績の回復に伴う売上債権やたな卸資産の増加等の資金の減少要因はあったものの、税金等調整前当期純利益の計上等の資金の増加要因により、前連結会計年度末に比べ、5億9千3百万円増加し、80億7千7百万円(前年同期比7.9%増)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は15億5千5百万円(前連結会計年度比55.0%減)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益29億8千万円の計上、減価償却費6億1千4百万円の計上、為替差損2億1千5百万円の計上の一方で、たな卸資産が11億1千5百万円の増加、売上債権が9億3千8百万円の増加、法人税等の支払額が4億8千4百万円であったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億8千3百万円(前連結会計年度比10.0%減)となりました。これは主に、定期預金の払戻による5億3千5百万円の収入があった一方、定期預金の預入による6億2千万円の支出があったこと、有形固定資産の取得による1億8千6百万円の支出、無形固定資産の取得による1億3千5百万円の支出があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3億6千5百万円(前連結会計年度比27.4%減)となりました。これは主に、長期借入れによる収入が4億5千万円であった一方、長期借入金の返済による4億2千9百万円の支出があったこと、配当金の支払による3億9千4百万円の支出があったことによるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は5億9千4百万円で、主なものは試験・研究設備及び生産設備の更新、基幹システム構築に伴うソフトウェア投資などであります。

また、当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。以下、各項目についても同様であります。

なお、設備の状況における各項目の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社・東京工場 (東京都板橋区)	生産・営業・ 研究開発設備	840,084	19,223	967,190 (5,938)	135,345	138,168	2,100,012	395
桶川工場 (埼玉県桶川市)	生産設備	58,166	808	159,650 (836)	56,941	1,085	276,652	9
埼玉営業所 (埼玉県鴻巣市)	営業設備	26,411	-	85,550 (268)	-	141	112,102	6
大阪営業所 (大阪市淀川区)	営業設備	31,182	-	92,760 (209)	-	369	124,312	15
神戸営業所 (神戸市中央区)	営業設備	28,027	-	308,045 (221)	-	255	336,328	10
広島営業所 (広島市安佐南区)	営業設備	17,625	-	99,958 (362)	-	162	117,746	10
函館工場 (北海道函館市)	生産設備	450,500	77,375	138,918 (56,416)	152,380	12,303	831,477	31
理研サービス(株)本社 (東京都板橋区)	営業設備	26,304	-	86,790 (298)	3,117	336	116,549	-
(株)理研計器奈良製作所 奈良工場 (奈良県桜井市)	生産設備	-	-	132,598 (6,173)	-	-	132,598	-
工場用地 (埼玉県比企郡川島町)	その他	-	-	819,642 (14,877)	-	-	819,642	-

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記の内、理研サービス(株)本社は理研サービス(株)、(株)理研計器奈良製作所奈良工場は(株)理研計器奈良製作所に対する賃貸設備であります。

3 上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している設備の内容は、次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
本社・東京工場 (東京都板橋区)	生産設備	28,273	64,873
桶川工場 (埼玉県桶川市)	生産設備	38,870	63,630
函館工場 (北海道函館市)	生産設備	103,706	267,307

(2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内 容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
(株)理研計器奈良製作所	奈良工場 (奈良県桜井市)	生産設備	159,873	28,039	- (-)	7,953	11,034	206,901	41
理研サービス(株)	東京営業所 (東京都江東区)	営業設備	17,797	-	82,975 (187)	-	360	101,132	10
理研計器関西サービス(株)	本社 (兵庫県尼崎市)	営業設備	27,075	5,707	83,656 (409)	-	33	116,473	24
理研計器西日本サービス(株)	名古屋サービス ステーション (名古屋市中村区)	営業設備	29,321	-	90,696 (340)	-	44	120,062	11

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している設備の内容は、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
(株)理研計器奈良製作所	奈良工場 (奈良県桜井市)	生産設備	17,431	29,582

(3) 在外子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
理研実業股?有限公司	本社 (台湾台南県)	営業設備	34,510	2,444	18,718 (496)	1,488	57,161	24

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	94,000,000
計	94,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月29日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	23,661,000	23,661,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	23,661,000	23,661,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成4年5月20日 (注)	2,151,000	23,661,000	-	2,565,500	-	2,545,508

(注) 株式分割(1:1.1)によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	35	26	88	58	2	3,994	4,203	-
所有株式数(単元)	-	85,557	1,296	42,876	16,976	12	89,732	236,449	16,100
所有株式数の割合(%)	-	36.18	0.55	18.13	7.18	0.01	37.95	100.00	-

(注) 1 自己株式404,359株は「個人その他」に4,043単元、「単元未満株式の状況」に59株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名または名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
理研計器協力会社持株会	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号	1,534	6.48
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関三丁目7番3号	1,403	5.93
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	1,400	5.92
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	1,101	4.65
クレディットスイスアーゲー チューリッヒ(常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	UETLIBERGSTRASSE 231 P.O.BOX 600 CH-8070 ZURICH SWITZERLAND (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,075	4.54
理研計器従業員持株会	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号	901	3.81
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	837	3.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	802	3.39
オイレス工業株式会社	東京都港区港南一丁目6番34号	747	3.16
長野計器株式会社	東京都大田区東馬込一丁目30番4号	711	3.00
計	-	10,511	44.43

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 404,300	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,240,600	232,406	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 16,100	-	-
発行済株式総数	23,661,000	-	-
総株主の議決権	-	232,406	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、100株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
理研計器株式会社	東京都板橋区小豆沢二丁目7番6号	404,300	-	404,300	1.71
計	-	404,300	-	404,300	1.71

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,121	736,964
当期間における取得自己株式数	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	404,359	-	404,359	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を最重要政策の一つとしており、配当性向並びに株主資本配当率、財務状況等を総合的に勘案し、継続した安定配当を行うことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針を総合的に勘案し、1株当たり普通配当17円（うち中間配当8.5円）を実施いたしました。その結果、配当性向は31.3%、純資産配当率は2.1%となりました。

内部留保資金につきましては、研究開発、製造設備の増強、販売網の拡充など、今後の事業の展開に有効に活用してまいります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年11月12日 取締役会決議	197	8.5
平成23年6月29日 定時株主総会決議	197	8.5

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	1,310	1,070	790	711	820
最低(円)	816	590	419	495	470

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6箇月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	566	620	708	789	820	771
最低(円)	500	470	587	663	739	532

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。



5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)		岩澤 忠	昭和17年9月5日生	昭和41年4月 当社入社 平成元年3月 品質保証部長 平成7年6月 取締役 平成15年6月 執行役員 平成17年6月 常務取締役上席執行役員 平成18年7月 専務取締役上席執行役員 平成20年6月 代表取締役社長(現)	(注)3	756
取締役	専務執行役員 管理本部長 経理部長	小林 久悦	昭和22年8月7日生	昭和49年1月 当社入社 平成8年3月 生産本部製造部長 平成15年6月 取締役執行役員 平成19年3月 生産本部長 平成21年6月 常務取締役上席執行役員管理本部長 兼経理部長 平成23年6月 取締役専務執行役員管理本部長兼経 理部長(現)	(注)3	331
取締役	常務執行役員 営業本部長 営業企画部長 MRD室長	松村 晃司	昭和26年11月10日生	昭和49年4月 当社入社 平成13年6月 営業本部営業技術部長 平成18年6月 取締役執行役員 平成19年3月 営業本部営業企画部長(現) 平成21年6月 営業本部副本部長 平成23年6月 取締役常務執行役員営業本部長兼M RD室長(現)	(注)3	266
取締役	執行役員 品質管理 センター長	石地 徹	昭和28年2月4日生	昭和53年4月 当社入社 平成14年3月 技術開発本部研究部長 平成17年10月 株式会社理研計器恵山製作所取締役 工場長 平成19年3月 品質管理センター長(現) 平成19年6月 執行役員(現) 平成21年6月 取締役(現)	(注)3	200
取締役	執行役員 技術開発本部 副本部長 技術部長	小谷野 純一	昭和33年4月5日生	昭和56年4月 当社入社 平成19年3月 技術開発本部技術部長(現) 平成19年6月 執行役員(現) 平成21年6月 取締役(現) 平成21年7月 技術開発本部副本部長(現)	(注)3	153
取締役	執行役員 管理本部 副本部長 総務部長 経営企画室長	松本 哲哉	昭和39年10月13日生	昭和62年4月 当社入社 平成18年7月 執行役員経理部長兼経営監査室長 平成19年3月 執行役員管理本部経理部長兼社長室 長 平成21年6月 取締役執行役員管理本部総務部長兼 経営企画室長(現) 平成21年7月 管理本部副本部長(現)	(注)3	269
取締役	執行役員 技術開発本部 研究部長	中野 信夫	昭和28年6月15日生	昭和52年4月 当社入社 平成18年3月 技術開発本部研究部長(現) 平成19年6月 執行役員(現) 平成23年6月 取締役(現)	(注)3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
常勤監査役		角田 三男吉	昭和19年4月12日生	昭和42年1月 当社入社 平成11年6月 経理部長 平成15年6月 常勤監査役(現)	(注)4	312
監査役		小谷 誠	昭和12年9月25日生	昭和52年10月 東京電機大学工学部教授 平成7年4月 同大学理事 平成10年4月 同大学学長 平成17年6月 当社監査役(現) 平成19年3月 東京電機大学理事(現) 平成20年4月 同大学名誉教授(現)	(注)5	-
監査役		加藤 敏充	昭和18年2月8日生	平成7年10月 興銀信託銀行株式会社代表取締役常務 平成12年10月 みずほ信託銀行株式会社代表取締役副社長 平成13年10月 みずほ不動産調査サービス株式会社代表取締役社長 平成17年3月 東京ベイヒルトン株式会社代表取締役社長 平成21年6月 当社監査役(現)	(注)5	-
監査役		服部 弘志	昭和18年3月14日生	昭和46年4月 弁護士登録 昭和51年4月 東京八重洲法律事務所開設・パートナー 平成17年3月 シティ法律事務所開設・所長(現) 平成23年6月 当社監査役(現)	(注)4	-
計						2,297

- (注)1 監査役小谷 誠、監査役加藤 敏充及び監査役服部 弘志は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 当社では、経営の意思決定・業務監督機能と業務執行機能を分離して、取締役と執行役員の役割、権限、責任を明確化することにより、取締役会の機能強化と業務執行の効率化・迅速化を図るため、執行役員制を導入しております。
- 3 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 4 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 5 平成21年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数(百株)
辻田 裕	昭和16年5月13日生	昭和41年4月 当社入社 平成元年3月 生産本部生産管理部長 平成11年6月 取締役 平成19年3月 管理本部長 平成19年6月 常務取締役 平成21年6月 常勤監査役	652

執行役員は11名で以下の者で構成されております( は取締役兼務を表しております)。

役職	氏名	担当
専務執行役員	小林 久悦	管理本部長兼経理部長
常務執行役員	松村 晃司	営業本部長兼営業企画部長兼MRD室長
執行役員	石地 徹	品質管理センター長
執行役員	小谷野 純一	技術開発本部副本部長兼技術部長
執行役員	松本 哲哉	管理本部副本部長兼総務部長兼経営企画室長
執行役員	中野 信夫	技術開発本部研究部長
執行役員	村尾 昭	生産本部副本部長兼東京工場長
執行役員	安達 真一	営業本部海外営業部長
執行役員	大谷 晴一	技術開発本部研究部担当部長
執行役員	小川 勇	営業本部カスタムエンジニアリング部長
執行役員	甚川 修三	営業本部西日本営業部長

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社グループは、「『人々が安心して働ける環境づくり』を永久のテーマとして社会の発展に貢献する」という経営理念のもとに、株主及び投資家重視の経営方針を立て、企業競争力を強化し、企業価値の向上を図るため、経営判断の迅速化を図るとともに効率的かつ透明性の高い経営に努めております。

会社の機関の内容及び内部統制システムの状況

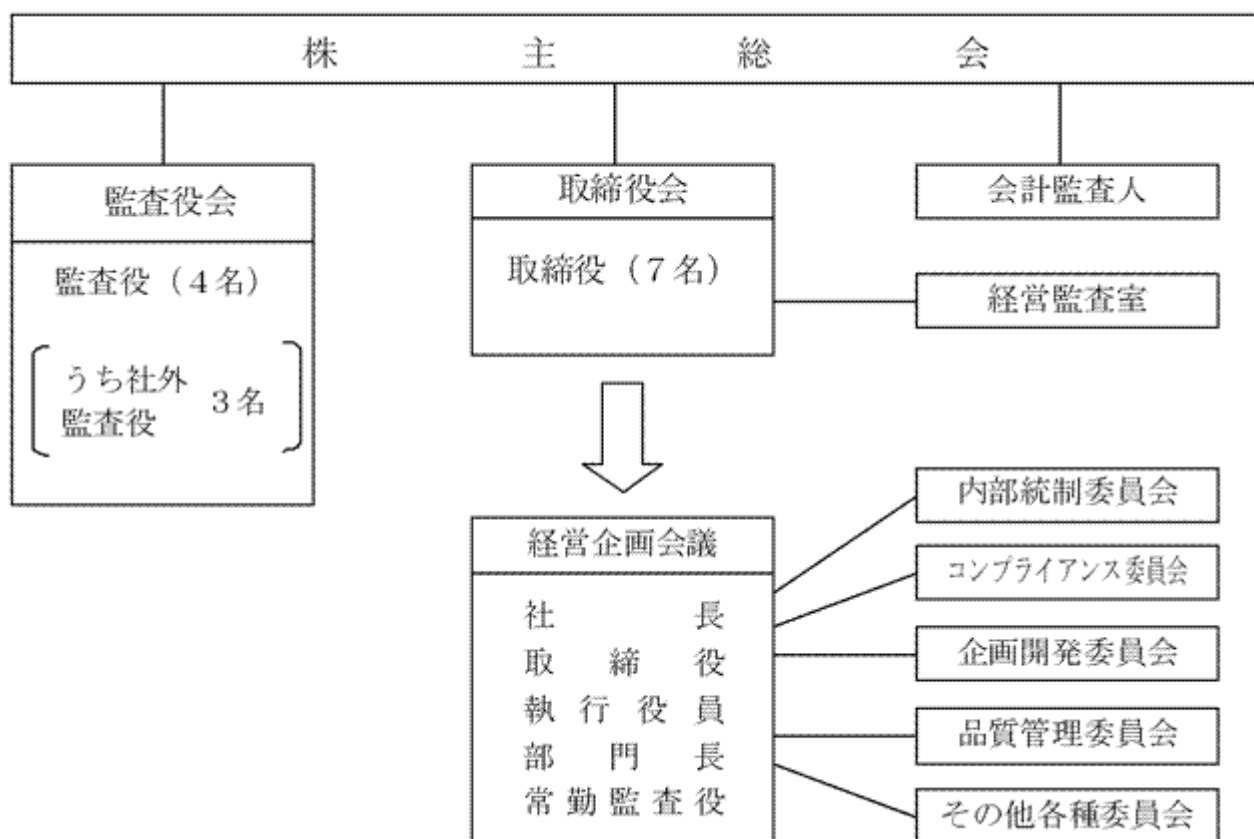
#### ( ) 会社の機関の基本説明及び当該体制を採用する理由

当社の取締役会は、7名の取締役からなり、迅速かつ適切な意思決定を行うため、定期的に取り締役会を開催する他、全取締役、執行役員及び各部門長で構成する経営企画会議を毎週開催し、経営・研究開発・生産・販売・品質管理・情報管理を中心とした業務全般に亘る意思決定と業務執行の迅速な対応を図っております。

さらに、執行役員制度を導入し、経営組織の効率化と責任の明確化を図っております。

当社は、当社の機関構成を検討した結果、取締役の意思決定と職務執行を監査する制度として監査役制度が適していると考え、監査役制度を採用しております。なお、監査役会は監査役4名で構成されており、内3名は、社外監査役であります。監査役は取締役会、経営企画会議その他重要な会議に出席並びに重要文書の閲覧等厳正な監査を実施して、取締役の意思決定の過程及び取締役の職務執行状況についても常に監視する体制となっております。また、監査役（監査役会）は会計監査人より会計監査の監査計画の説明、会計監査の監査実施状況並びに監査結果の報告を受けると同時に、適宜情報交換を行い、監査体制の充実を図っております。

#### ( ) 主要会議を含めたコーポレート・ガバナンスの機能図は次のとおりであります。



#### ( ) 内部統制システム及び内部監査の状況

当社の内部統制システムといたしましては、内部監査部門と内部統制部門を兼ねた社長直轄の経営監査室（4名）を設置しております。経営監査室は定期的にも実施する内部監査を通じて、会社の業務実施状況の実態を把握し、業務が法令、定款及び社内規程に準拠して適正・妥当かつ合理的に行われているか、会社の制度・組織・諸規程が適正・妥当であるかなどを調査・検証しております。

( ) 監査役監査の状況

当社の監査役会は、平成23年6月29日現在、常勤監査役1名と社外監査役3名との4名で構成され、当該事業年度において監査役会は9回開催されております。常勤監査役は、取締役会の他重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため経営企画会議などの重要な会議に出席するとともに、稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧するなどして、取締役の意思決定の状況及び取締役の職務執行の監査を行っております。

経営監査室と情報を共有しつつ、執行ラインとは異なる立場で定期的に内部監査を実施しております。また、会計監査人とは監査計画の説明、監査結果の報告を受けると同時に、適宜情報交換を行い、監査体制の充実を図っております。

なお、常勤監査役 角田 三男吉は、平成11年6月から平成15年6月まで当社の経理部長を務め、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

( ) 会計監査の状況

会計監査人につきましては、有限責任監査法人トーマツに委嘱し継続して会計監査を受けております。当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成は次のとおりです。

- ・業務を執行した会計士の氏名  
指定有限責任社員 業務執行社員 中井 新太郎  
指定有限責任社員 業務執行社員 中原 健
- ・監査業務に係る補助者の構成  
公認会計士 3人  
会計士補等 5人  
その他 2人

( ) 社外監査役との関係

当社では社外監査役を3名選任しており、各社外監査役と当社の間取引関係その他の利害関係はありません。

- ・社外監査役 小谷 誠は、大学教授として技術分野に精通しており、監査役としての役割を十分果たすことができると判断し、選任しております。
- ・社外監査役 加藤 敏充は、会社経営全般、特に財務分野に関し精通しており、監査役としての役割を十分に果たすことができると判断し、選任しております。
- ・社外監査役 服部 弘志は、弁護士としての経験と専門知識を有しており、監査役としての役割を十分に果たすことができると判断し、選任しております。

経営監査室及び会計監査人とは、監査役会を通じて情報を共有しております。

なお、社外取締役はおりません。その理由として、当社事業に関して経営判断を行う場合には、当社の事業内容、保有する技術及びその製品に対する深い理解が欠かせないことから、取締役会は当社の事業に精通した取締役に構成しております。外部からのチェック機能という観点で、社外監査役より取締役に於いて独立かつ客観的見地に立っての質問や発言があり、経営の監督機能は十分働いているものと考えております。

リスク管理及びコンプライアンス体制の状況

リスク管理体制としましては、危機管理を体系的に定めております。

当社及び当社グループ会社経営に重大な影響を与える不測の事態が発生した場合には、「緊急事態対応マニュアル」に基づいて社長を本部長とする「緊急対策本部」を直ちに設置し、迅速に必要な初期対応を行い、損害・影響を最小限にとどめる体制を整えております。

コンプライアンス（法令遵守）につきましては、コンプライアンス全体を統括する組織として社長を委員長とし、社外弁護士も参加する「コンプライアンス委員会」を設置し、役員及び従業員の法令遵守に努めており、その運営状況については、取締役会へ報告する体制をとっております。

また、「行動規範と行動指針」を制定し、グループ企業の価値観・倫理観ととるべき行動を明らかにしている他、グループ企業の従業員からの通報・相談を受け付ける「コンプライアンスホットライン」（社内外に複数の受付窓口を設置）を設けております。

法律上、会計上の問題に関しましては、顧問弁護士、公認会計士等のアドバイスを適宜受け法令遵守に努めております。

## 役員報酬等

( ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する報酬は基本報酬のみで、次のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額(千円)	対象となる役員の員数(人)
取締役 ( 社外取締役を除く。 )	157,500	7
監査役 ( 社外監査役を除く。 )	27,660	2
社外役員	10,920	3

( ) 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関しては、役員報酬規程を定めており、経済情勢、在任期間、業績を勘案し、取締役会及び監査役会において審議の上、報酬額を決定しております。

## 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨、定款に定めております。

## 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外監査役は法令が定める額としております。ただし、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

## 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

## 取締役会で決議できる株主総会決議事項

( ) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

( ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

## 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

## 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

( ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
25銘柄 1,827,736千円

( ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大陽日酸株式会社	348,625	318,643	企業活動の円滑な推進のため
オイレス工業株式会社	208,362	316,501	企業活動の円滑な推進のため
興銀リース株式会社	165,000	307,725	企業活動の円滑な推進のため
長野計器株式会社	267,946	166,662	企業活動の円滑な推進のため
日特エンジニアリング株式会社	145,000	108,025	企業活動の円滑な推進のため
株式会社重松製作所	246,000	93,972	企業活動の円滑な推進のため
株式会社リケン	208,150	76,599	企業活動の円滑な推進のため
日本興亜損害保険株式会社	119,300	70,029	財務、総務に係る業務の円滑な推進のため
太陽インキ製造株式会社	24,000	60,120	企業活動の円滑な推進のため
株式会社パイテック	63,200	46,072	企業活動の円滑な推進のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	242,120	44,792	財務、総務に係る業務の円滑な推進のため
東亜建設工業株式会社	270,000	28,620	企業活動の円滑な推進のため

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
オイレス工業株式会社	208,362	332,962	企業活動の円滑な推進のため
興銀リース株式会社	165,000	330,000	企業活動の円滑な推進のため
大陽日酸株式会社	350,859	243,145	企業活動の円滑な推進のため
長野計器株式会社	267,946	197,744	企業活動の円滑な推進のため
日特エンジニアリング株式会社	145,000	133,690	企業活動の円滑な推進のため
株式会社重松製作所	246,000	111,684	企業活動の円滑な推進のため
株式会社リケン	208,150	72,019	企業活動の円滑な推進のため
太陽ホールディングス株式会社	24,000	61,440	企業活動の円滑な推進のため
NKSJホールディングス株式会 社	107,370	58,301	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
東亜建設工業株式会社	270,000	44,820	企業活動の円滑な推進のため
株式会社バイテック	63,200	40,258	企業活動の円滑な推進のため
株式会社みずほフィナンシャルグ ループ	242,120	33,412	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
科研製薬株式会社	31,000	30,814	企業活動の円滑な推進のため
日本フェンオール株式会社	40,000	21,960	企業活動の円滑な推進のため
株式会社三井住友フィナンシャ ルグループ	8,220	21,256	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
日本ゼオン株式会社	25,234	19,354	企業活動の円滑な促進のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル グループ	48,510	18,627	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
第一生命保険株式会社	104	13,052	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
英和株式会社	52,272	13,015	企業活動の円滑な推進のため
株式会社IHI	51,234	10,400	企業活動の円滑な推進のため
株式会社サーラコーポレーション	24,794	9,620	企業活動の円滑な推進のため
三浦工業株式会社	1,958	4,885	企業活動の円滑な推進のため
みずほ信託銀行株式会社	54,600	4,095	財務、総務に係る業務の円滑な 推進のため
古河電気工業株式会社	3,500	1,176	企業活動の円滑な推進のため

( ) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額  
並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金の合 計額	売却損益の合 計額	評価損益の合計 額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	3,204	2,976	-	-	-

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
提出会社	38,000	-	36,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	38,000	-	36,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。



## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の連結財務諸表及び前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の財務諸表並びに当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の連結財務諸表及び当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な財務報告ができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、その主催するセミナー等に参加し、常に最新の会計基準の動向等を把握することに努めております。

1【連結財務諸表等】  
 (1)【連結財務諸表】  
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,464,309	8,142,695
受取手形及び売掛金	7,381,622	8,323,941
有価証券	600,263	600,696
商品及び製品	1,291,472	1,805,923
仕掛品	1,069,355	1,637,148
原材料及び貯蔵品	556,505	584,055
繰延税金資産	471,632	624,905
その他	279,036	275,192
貸倒引当金	7,957	13,091
流動資産合計	19,106,240	21,981,469
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 6,271,337	2 6,159,228
減価償却累計額	3,916,170	4,003,342
建物及び構築物(純額)	2,355,167	2,155,886
機械装置及び運搬具	975,476	962,588
減価償却累計額	784,361	823,441
機械装置及び運搬具(純額)	191,114	139,147
土地	4,120,820	4,022,419
リース資産	412,369	551,590
減価償却累計額	103,556	195,852
リース資産(純額)	308,813	355,738
建設仮勘定	139,803	216,654
その他	2,156,188	2,187,184
減価償却累計額	1,966,659	2,005,199
その他(純額)	189,528	181,984
有形固定資産合計	7,305,248	7,071,829
無形固定資産		
ソフトウェア	79,741	537,771
ソフトウェア仮勘定	390,321	3,670
その他	18,042	18,042
無形固定資産合計	488,104	559,483
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,312,119	1 2,376,496
繰延税金資産	286,342	193,304
その他	1 499,192	1 528,145
貸倒引当金	47,194	37,624
投資その他の資産合計	3,050,459	3,060,321
固定資産合計	10,843,813	10,691,634
資産合計	29,950,053	32,673,104

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,948,592	2,662,068
短期借入金	974,325	1,097,385
リース債務	82,261	108,087
未払費用	233,143	234,912
未払法人税等	256,370	897,598
繰延税金負債	362	805
賞与引当金	375,535	454,356
製品保証引当金	96,046	88,643
受注損失引当金	20,655	12,516
災害損失引当金	-	8,262
設備関係支払手形	5,294	3,954
その他	824,616	779,171
流動負債合計	4,817,201	6,347,761
固定負債		
社債	400,000	400,000
長期借入金	945,145	942,760
長期未払金	457,330	350,243
リース債務	258,997	288,563
繰延税金負債	163,599	162,173
退職給付引当金	268,885	101,768
負ののれん	46,582	31,054
その他	3,500	3,500
固定負債合計	2,544,041	2,280,063
負債合計	7,361,242	8,627,825
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,565,500	2,565,500
資本剰余金	2,826,219	2,826,219
利益剰余金	17,122,121	18,612,502
自己株式	254,208	256,715
株主資本合計	22,259,632	23,747,506
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	436,584	445,705
為替換算調整勘定	107,406	147,932
その他の包括利益累計額合計	329,178	297,772
純資産合計	22,588,810	24,045,278
負債純資産合計	29,950,053	32,673,104

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	17,314,508	20,043,638
売上原価	10,340,641	11,466,922
売上総利益	6,973,866	8,576,716
販売費及び一般管理費		
支払手数料	380,705	480,383
広告宣伝費	80,394	76,089
給料及び手当	1,716,924	1,765,199
賞与引当金繰入額	154,318	184,332
退職給付費用	61,638	63,384
研究開発費	959,519	962,164
減価償却費	82,490	76,103
その他	1,815,637	1,892,433
販売費及び一般管理費合計	5,251,629	5,500,090
営業利益	1,722,237	3,076,625
営業外収益		
受取利息	8,859	6,869
受取配当金	37,041	42,076
負ののれん償却額	15,527	15,527
持分法による投資利益	51,942	86,063
受取保険金及び配当金	177,718	27,810
雑収入	47,222	40,274
営業外収益合計	338,312	218,622
営業外費用		
支払利息	53,483	50,907
為替差損	15,628	118,340
雑損失	2,672	4,724
営業外費用合計	71,785	173,972
経常利益	1,988,764	3,121,275

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2 293,471	2 71
貸倒引当金戻入額	467	577
役員退職慰労引当金戻入額	2,500	-
特別利益合計	296,439	648
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	3 1,654	3 22,400
固定資産除却損	4 44,538	4 3,683
投資有価証券評価損	-	10,000
ゴルフ会員権評価損	-	2,300
減損損失	-	5 60,240
災害による損失	-	6 41,122
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	1,468
特別損失合計	46,193	141,215
税金等調整前当期純利益	2,239,010	2,980,709
法人税、住民税及び事業税	655,692	1,163,419
法人税等調整額	206,903	68,470
法人税等合計	862,596	1,094,949
少数株主損益調整前当期純利益	-	1,885,760
当期純利益	1,376,414	1,885,760

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	1,885,760
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	9,892
為替換算調整勘定	-	16,486
持分法適用会社に対する持分相当額	-	24,811
その他の包括利益合計	-	<sup>2</sup> 31,406
包括利益	-	<sup>1</sup> 1,854,354
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	1,854,354
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	2,565,500	2,565,500
当期末残高	2,565,500	2,565,500
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	2,826,219	2,826,219
当期末残高	2,826,219	2,826,219
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	16,210,877	17,122,121
当期変動額		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	1,376,414	1,885,760
<b>当期変動額合計</b>	911,244	1,490,380
当期末残高	17,122,121	18,612,502
<b>自己株式</b>		
前期末残高	251,937	254,208
当期変動額		
自己株式の取得	2,271	2,506
<b>当期変動額合計</b>	2,271	2,506
当期末残高	254,208	256,715
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	21,350,658	22,259,632
当期変動額		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	1,376,414	1,885,760
自己株式の取得	2,271	2,506
<b>当期変動額合計</b>	908,973	1,487,873
当期末残高	22,259,632	23,747,506
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	190,734	436,584
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	245,850	9,120
<b>当期変動額合計</b>	245,850	9,120
当期末残高	436,584	445,705
<b>為替換算調整勘定</b>		
前期末残高	88,238	107,406
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,167	40,526
<b>当期変動額合計</b>	19,167	40,526
当期末残高	107,406	147,932

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
前期末残高	102,495	329,178
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	226,682	31,406
当期変動額合計	226,682	31,406
当期末残高	329,178	297,772
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	21,453,154	22,588,810
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	1,376,414	1,885,760
自己株式の取得	2,271	2,506
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	226,682	31,406
当期変動額合計	1,135,656	1,456,467
当期末残高	22,588,810	24,045,278



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,239,010	2,980,709
減価償却費	597,975	614,105
減損損失	-	60,240
災害損失	-	32,859
負ののれん償却額	15,527	15,527
貸倒引当金の増減額（ は減少）	13,091	4,386
賞与引当金の増減額（ は減少）	1,101	78,821
製品保証引当金の増減額（ は減少）	59,958	7,402
受注損失引当金の増減額（ は減少）	1,403	8,138
災害損失引当金の増減額（ は減少）	-	8,262
退職給付引当金の増減額（ は減少）	119,722	167,117
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	328,228	-
受取利息及び受取配当金	45,900	48,946
受取保険金	177,718	27,810
支払利息	53,483	50,907
為替差損益（ は益）	116,666	215,515
持分法による投資損益（ は益）	51,942	86,063
固定資産売却損益（ は益）	291,817	22,328
固定資産除却損	44,538	3,683
ゴルフ会員権評価損	-	2,300
投資有価証券評価損益（ は益）	-	10,000
売上債権の増減額（ は増加）	1,185,105	938,279
たな卸資産の増減額（ は増加）	854,741	1,115,384
仕入債務の増減額（ は減少）	28,365	715,982
未払消費税等の増減額（ は減少）	44,208	7,976
その他	52,314	381,608
小計	3,993,235	1,987,075
利息及び配当金の受取額	45,891	48,933
利息の支払額	53,329	50,857
法人税等の支払額	877,486	484,693
保険金の受取額	351,680	54,904
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,459,991	1,555,362

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	559,186	620,624
定期預金の払戻による収入	347,387	535,008
有形固定資産の取得による支出	331,862	186,644
有形固定資産の売却による収入	461,911	28,435
無形固定資産の取得による支出	325,820	135,754
投資有価証券の取得による支出	4,561	4,856
子会社株式の取得による支出	15,000	-
関係会社株式の売却による収入	0	-
貸付金の回収による収入	660	560
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>426,471</b>	<b>383,875</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	-	100,000
長期借入れによる収入	450,000	450,000
長期借入金の返済による支出	416,530	429,325
ファイナンス・リース債務の返済による支出	71,892	91,405
自己株式の純増減額（ は増加）	507	736
配当金の支払額	464,850	394,320
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>503,781</b>	<b>365,787</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	110,857	227,495
<b>現金及び現金同等物の増減額（ は減少）</b>	<b>2,418,881</b>	<b>578,203</b>
現金及び現金同等物の期首残高	5,065,482	7,484,364
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	-	15,000
現金及び現金同等物の期末残高	1 7,484,364	1 8,077,567

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数 7社</p> <p>主要な連結子会社の名称</p> <p>株式会社理研計器奈良製作所 理研サービス株式会社 理研計器中部サービス株式会社 理研計器関西サービス株式会社 理研計器中国サービス株式会社 理研計器九州サービス株式会社 理研実業股?有限公司</p> <p>なお、理研計器北海道サービス株式会社につきましては、平成22年1月1日に理研サービス株式会社と合併いたしました。</p> <p>(2) 非連結子会社名</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社 理研計器商貿(上海)有限公司</p> <p>連結の範囲から除いた理由</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社及び理研計器商貿(上海)有限公司は、いずれも小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数 6社</p> <p>主要な連結子会社の名称</p> <p>株式会社理研計器奈良製作所 理研サービス株式会社 理研計器関西サービス株式会社 理研計器西日本サービス株式会社 理研実業股?有限公司 理研計器商貿(上海)有限公司</p> <p>上記のうち、理研計器商貿(上海)有限公司は重要性が増したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。</p> <p>なお、当社子会社である理研計器中部サービス株式会社、理研計器中国サービス株式会社、理研計器九州サービス株式会社の3社は、平成23年1月1日をもって合併し、商号を理研計器西日本サービス株式会社に変更いたしました。</p> <p>(2) 非連結子会社名</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社</p> <p>連結の範囲から除いた理由</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>
<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法を適用した非連結子会社数</p> <p>(2) 持分法を適用した関連会社数 3社</p> <p>主要な会社等の名称</p> <p>東京ミクロ精器株式会社 RKI INSTRUMENTS INC.</p> <p>当連結会計年度において理研フィガロ株式会社の株式を譲渡したことにより関連会社ではなくなったため、持分法適用の範囲から除外しております。</p>	<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法を適用した非連結子会社数</p> <p>(2) 持分法を適用した関連会社数 3社</p> <p>主要な会社等の名称</p> <p>同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>( 3 ) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社 理研計器商貿(上海)有限公司 RIKEN KEIKI KOREA CO.,LTD</p> <p>持分法を適用しない理由</p> <p>持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等から見て、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>( 4 ) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p>	<p>( 3 ) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称</p> <p>理研計器テクノクラート株式会社 RIKEN KEIKI KOREA CO.,LTD</p> <p>持分法を適用しない理由</p> <p>同左</p> <p>( 4 ) 同左</p>
<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>連結子会社の決算日は、連結決算日とは異なりすべて12月31日であります。なお、決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>同左</p>
<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>( 1 ) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券</p> <p>(イ) 満期保有目的の債券</p> <p>償却原価法(定額法)</p> <p>(ロ) その他有価証券</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</li> <li>・時価のないもの 移動平均法による原価法</li> </ul> <p>デリバティブ</p> <p>時価法</p> <p>(ただし、特例処理の要件を充たす金利スワップ取引については時価評価せず、その金銭の受払の純額を金利変換の対象となる借入債務に係る利息に加減して処理)</p>	<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>( 1 ) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券</p> <p>(イ) 満期保有目的の債券</p> <p>同左</p> <p>(ロ) その他有価証券</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時価のあるもの 同左</li> <li>・時価のないもの 同左</li> </ul> <p>デリバティブ</p> <p>同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>たな卸資産 (イ) 商品及び製品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) ただし、一部製品については個別原価法</p> <p>(ロ) 仕掛品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) ただし、一部製品については個別原価法</p> <p>(ハ) 原材料及び貯蔵品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) なお、サービス子会社 5 社は最終仕入原価法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 31～50年 無形固定資産 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 賞与引当金 従業員に対する賞与支給に備えるため、その支給見込額に基づき計上しております。 製品保証引当金 保証期間中に発生が見込まれるアフターサービス費用に備えるため、過去の支出実績を基準にして算出した見積額を計上しております。 受注損失引当金 受注済製品の販売時の損失に備えるため、連結会計年度末における未引渡しの受注済製品に対し、販売時に見込まれる損失相当額を計上しております。</p>	<p>たな卸資産 (イ) 商品及び製品 同左</p> <p>(ロ) 仕掛品 同左</p> <p>(ハ) 原材料及び貯蔵品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) なお、サービス子会社 3 社は最終仕入原価法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 有形固定資産(リース資産を除く) 同左 無形固定資産 自社利用のソフトウェア 同左 リース資産 同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準 貸倒引当金 同左 賞与引当金 同左 製品保証引当金 同左 受注損失引当金 同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、数理計算上の差異（ 51,414千円）は、発生時に全額費用処理しております。</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>当連結会計年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年 7月31日）を適用しております。</p> <p>なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>役員退職慰労引当金</p> <p>（追加情報）</p> <p>当社のサービス子会社 6社及び株式会社理研計器奈良製作所は、平成20年度の定時株主総会において、役員退職慰労金制度廃止による打ち切り支給を決議したことに伴い、役員退職慰労引当金を全額取り崩し、将来の支給予定額320,904千円を固定負債の長期未払金に計上しております。</p> <p>（4）重要な収益及び費用の計上基準</p> <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>（イ）当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準 （工事の進捗率の見積りは原価比例法）</p> <p>（ロ）その他の工事 工事完成基準</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、当連結会計年度より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年 2月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用し、当連結会計年度から着手した工事契約から当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p>	<p>退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、数理計算上の差異（ 17,519千円）は、発生時に全額費用処理しております。</p> <p>災害損失引当金</p> <p>災害により損傷した営業所建物の解体等の支払に備えるため、支出見込額を計上しております。</p> <p>（4）重要な収益及び費用の計上基準</p> <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準</p> <p>（イ）当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 同左</p> <p>（ロ）その他の工事 同左</p>

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>(5) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>ヘッジ会計の方法</p> <p>金利スワップ取引について特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段：金利スワップ ヘッジ対象：借入金利息</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法</p> <p>特例処理によっている金利スワップ取引については、有効性の判定を省略しております。</p>	<p>(5) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>ヘッジ会計の方法</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ方針</p> <p>同左</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法</p> <p>同左</p>
<p>(6)</p>	<p>(6) のれんの償却方法及び償却期間</p> <p>5年間の定額法により償却を行っております。</p>
<p>(7)</p>	<p>(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手元現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から6ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>
<p>(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項</p> <p>消費税等の会計処理</p> <p>消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>	<p>(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項</p> <p>消費税等の会計処理</p> <p>同左</p>
<p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項</p> <p>連結子会社の資産及び負債の評価方法は、全面時価評価法によっております。</p>	<p>5</p>
<p>6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項</p> <p>5年間で均等償却しております。</p>	<p>6</p>
<p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手元現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から6ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>7</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響額は軽微であります。</p>
	<p>(持分法に関する会計基準及び持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱いの適用)</p> <p>当連結会計年度より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年 3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年 3月10日)を適用しております。なお、これによる経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年 3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>



【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(包括利益の表示に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (平成23年 3月31日)
<p>1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>投資有価証券(株式) 457,878千円</p> <p>その他(投資その他の資産) 21,784千円 (その他の関係会社有価証券)</p> <p>2 国庫補助金による有形固定資産(建物)の圧縮記帳額 132,425千円</p>	<p>1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>投資有価証券(株式) 496,144千円</p> <p>その他(投資その他の資産) 21,784千円 (その他の関係会社有価証券)</p> <p>2 国庫補助金による有形固定資産(建物)の圧縮記帳額 132,425千円</p>

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)																
<p>1 当連結会計年度の研究開発費は959,519千円であり、全額を一般管理費に計上しております。</p> <p>2 固定資産売却益は、土地293,471千円であります。</p> <p>3 固定資産売却損は、土地975千円、建物678千円であります。</p> <p>4 固定資産除却損は、機械及び装置41,803千円、工具・器具及び備品2,735千円であります。</p>	<p>1 当連結会計年度の研究開発費は962,164千円であり、全額を一般管理費に計上しております。</p> <p>2 固定資産売却益は、車両及び運搬具71千円であります。</p> <p>3 固定資産売却損は、土地17,771千円、建物4,507千円、車両及び運搬具105千円、構築物8千円、工具・器具及び備品7千円であります。</p> <p>4 固定資産除却損は、工具・器具及び備品2,371千円、建物862千円、機械及び装置442千円、車両及び運搬具7千円あります。</p> <p>5 固定資産減損損失 当連結会計年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上いたしました。</p> <p>(1) 減損損失を認識した資産の概要</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">茨城県水戸市</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 東日本大震災に伴う営業所移転により、上記資産は事業の用に直接供していない遊休資産となりました。当該遊休資産は時価が著しく下落しているため、減損損失を計上いたしました。</p> <p>(3) 減損損失の金額 上記資産に係る減損損失額は60,240千円であります。</p> <p>(4) 資産のグルーピング方法 当社は、各種産業用測定機器の製造、販売を主事業としている専門メーカーであり、単一グループにしております。しかし、遊休資産については個別に取扱いをしております。</p> <p>(5) 回収可能価額の算定方法 資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、路線価に基づく評価額により評価しております。</p> <p>6 災害による損失 東日本大震災によるものであり、内訳は下記の通りであります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>固定資産の滅失損失</td> <td style="text-align: right;">25,537千円</td> </tr> <tr> <td>災害により損壊した資産の撤去費用等</td> <td style="text-align: right;">7,500千円</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産の滅失損失</td> <td style="text-align: right;">4,841千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">3,243千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">41,122千円</td> </tr> </table>	場所	用途	種類	茨城県水戸市	遊休資産	土地	固定資産の滅失損失	25,537千円	災害により損壊した資産の撤去費用等	7,500千円	たな卸資産の滅失損失	4,841千円	その他	3,243千円	計	41,122千円
場所	用途	種類															
茨城県水戸市	遊休資産	土地															
固定資産の滅失損失	25,537千円																
災害により損壊した資産の撤去費用等	7,500千円																
たな卸資産の滅失損失	4,841千円																
その他	3,243千円																
計	41,122千円																

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	1,603,097千円
少数株主に係る包括利益	-千円
計	1,603,097千円
2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	245,850千円
為替換算調整勘定	10,911千円
持分法適用会社に対する持分相当額	30,078千円
計	226,829千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	23,661,000	-	-	23,661,000
合計	23,661,000	-	-	23,661,000
自己株式				
普通株式 (注)	435,340	3,695	-	439,035
合計	435,340	3,695	-	439,035

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加3,695株は、単元未満株式の買取による増加860株、持分法適用会社を取得した自己株式(当社株式)の当社帰属分2,835株であります。

2. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	267,474	11.5	平成21年3月31日	平成21年6月29日
平成21年11月13日 取締役会	普通株式	197,695	8.5	平成21年9月30日	平成21年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が連結会計年度末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	197,690	利益剰余金	8.5	平成22年3月31日	平成22年6月30日

当連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	23,661,000	-	-	23,661,000
合計	23,661,000	-	-	23,661,000
自己株式				
普通株式（注）	439,035	3,958	-	442,993
合計	439,035	3,958	-	442,993

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加3,958株は、単元未満株式の買取による増加1,121株、持分法適用会社取得した自己株式（当社株式）の当社帰属分2,837株であります。

2. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	197,691	8.5	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年11月12日 取締役会	普通株式	197,688	8.5	平成22年9月30日	平成22年12月6日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が連結会計年度末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	197,681	利益剰余金	8.5	平成23年3月31日	平成23年6月30日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）	当連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）
1 現金及び現金同等物の連結会計年度末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 7,464,309千円 有価証券勘定 600,263千円 預入期間が6ヶ月を超える定期預金 580,208千円 現金及び現金同等物 7,484,364千円	1 現金及び現金同等物の連結会計年度末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 8,142,695千円 有価証券勘定 600,696千円 預入期間が6ヶ月を超える定期預金 665,824千円 現金及び現金同等物 8,077,567千円

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																								
<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>1. リース資産の内容 生産設備(機械装置)及び工具、器具及び備品であります。</p> <p>2. リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額 相当額 (千円)</th> <th>減価償却累 計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高 相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び 運搬具</td> <td>1,231,733</td> <td>645,542</td> <td>586,191</td> </tr> <tr> <td>その他 (工具、器具 及び備品)</td> <td>369,685</td> <td>199,869</td> <td>169,815</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,601,419</td> <td>845,411</td> <td>756,007</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>253,219千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>551,390千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>804,609千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>支払リース料</td> <td>329,834千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>296,038千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>31,207千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 利息相当額の算定方法 ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	機械装置及び 運搬具	1,231,733	645,542	586,191	その他 (工具、器具 及び備品)	369,685	199,869	169,815	合計	1,601,419	845,411	756,007	1年内	253,219千円	1年超	551,390千円	計	804,609千円	支払リース料	329,834千円	減価償却費相当額	296,038千円	支払利息相当額	31,207千円	<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>1. リース資産の内容 同左</p> <p>2. リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額 相当額 (千円)</th> <th>減価償却累 計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高 相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び 運搬具</td> <td>1,056,530</td> <td>641,847</td> <td>414,682</td> </tr> <tr> <td>その他 (工具、器具 及び備品)</td> <td>343,008</td> <td>249,819</td> <td>93,188</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,399,538</td> <td>891,667</td> <td>507,871</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td>212,952千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>338,438千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>551,390千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>支払リース料</td> <td>275,786千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>248,135千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td>22,567千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 同左  利息相当額の算定方法 同左</p>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	機械装置及び 運搬具	1,056,530	641,847	414,682	その他 (工具、器具 及び備品)	343,008	249,819	93,188	合計	1,399,538	891,667	507,871	1年内	212,952千円	1年超	338,438千円	計	551,390千円	支払リース料	275,786千円	減価償却費相当額	248,135千円	支払利息相当額	22,567千円
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																																																						
機械装置及び 運搬具	1,231,733	645,542	586,191																																																						
その他 (工具、器具 及び備品)	369,685	199,869	169,815																																																						
合計	1,601,419	845,411	756,007																																																						
1年内	253,219千円																																																								
1年超	551,390千円																																																								
計	804,609千円																																																								
支払リース料	329,834千円																																																								
減価償却費相当額	296,038千円																																																								
支払利息相当額	31,207千円																																																								
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																																																						
機械装置及び 運搬具	1,056,530	641,847	414,682																																																						
その他 (工具、器具 及び備品)	343,008	249,819	93,188																																																						
合計	1,399,538	891,667	507,871																																																						
1年内	212,952千円																																																								
1年超	338,438千円																																																								
計	551,390千円																																																								
支払リース料	275,786千円																																																								
減価償却費相当額	248,135千円																																																								
支払利息相当額	22,567千円																																																								

## (金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

## 1 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、市場環境や長短のバランスを勘案して、銀行借入やリース等による間接調達その他、社債による直接調達を行い、資金調達手段の多様化を図っております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金には、顧客の信用リスクがありますが、当該リスク管理のため、当社グループは与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。有価証券及び投資有価証券は、主として余資の運用を目的とした公社債投信や、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格及び為替の変動リスクがあります。当該リスク管理のため、発行体の財務状況や市場価格及び為替変動の継続的モニタリングを行っております。

支払手形及び買掛金は、概ね1年以内の支払期日です。借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、変動金利借入には金利の変動リスクがありますが、一部については金利スワップ取引を行うことにより当該リスクを回避しております。

デリバティブ取引は、借入に係る金利の変動リスクを回避するため、金利スワップ取引を利用しております。また、デリバティブ取引に対してヘッジ会計を行っており、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジ有効性評価の方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

## (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が無い場合には合理的に算定された価額が含まれております。時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しており、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なる場合があります。また、「デリバティブ取引」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	7,464,309	7,464,309	-
(2) 受取手形及び売掛金	7,381,622	7,381,622	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	1,844,240	1,839,469	4,771
資産計	16,690,172	16,685,400	4,771
(1) 支払手形及び買掛金	1,948,592	1,948,592	-
(2) 短期借入金	974,325	988,391	14,066
(3) リース債務(流動負債)	82,261	82,380	119
(4) 社債	400,000	404,525	4,525
(5) 長期借入金	945,145	933,038	12,106
(6) リース債務(固定負債)	258,997	259,372	375
負債計	4,609,320	4,616,300	6,979
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

**負債**

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金に係るものを除く)  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金に係るもの)、(5) 長期借入金  
これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (3) リース債務(流動負債)、(6) リース債務(固定負債)  
これらの時価は、元利金の合計額を、新規にリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (4) 社債  
当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額を、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

**デリバティブ取引**

**金利関連**

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	728,970	512,645	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	467,878
公社債投信等	600,263

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,464,309	-	-	-
受取手形及び売掛金	7,381,622	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他	-	-	-	50,000
合計	14,845,931	-	-	50,000

(注) 4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	82,261	80,191	77,975	63,677	18,599	18,553

社債、長期借入金及びその他の有利子負債につきましては、連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、市場環境や長短のバランスを勘案して、銀行借入やリース等による間接調達その他、社債による直接調達を行い、資金調達手段の多様化を図っております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金には、顧客の信用リスクがありますが、当該リスク管理のため、当社グループは与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。有価証券及び投資有価証券は、主として余資の運用を目的とした公社債投信や、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格及び為替の変動リスクがあります。当該リスク管理のため、発行体の財務状況や市場価格及び為替変動の継続的モニタリングを行っております。

支払手形及び買掛金は、概ね1年以内の支払期日です。借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、変動金利借入には金利の変動リスクがありますが、一部については金利スワップ取引を行うことにより当該リスクを回避しております。

デリバティブ取引は、借入に係る金利の変動リスクを回避するため、金利スワップ取引を利用しております。また、デリバティブ取引に対してヘッジ会計を行っており、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジ有効性評価の方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格が無い場合には合理的に算定された価額が含まれております。時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しており、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なる場合があります。また、「デリバティブ取引」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2．参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	8,142,695	8,142,695	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,323,941	8,323,941	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	1,880,352	1,874,037	6,315
資産計	18,346,990	18,340,675	6,315
(1) 支払手形及び買掛金	2,662,068	2,662,068	-
(2) 短期借入金	1,097,385	1,111,498	14,113
(3) リース債務（流動負債）	108,087	108,719	632
(4) 社債	400,000	404,453	4,453
(5) 長期借入金	942,760	930,930	11,829
(6) リース債務（固定負債）	288,563	290,251	1,688
負債計	5,498,863	5,507,921	9,058
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。



**負債**

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金に係るものを除く)  
これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 短期借入金(1年内返済予定の長期借入金に係るもの)、(5) 長期借入金  
これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (3) リース債務(流動負債)、(6) リース債務(固定負債)  
これらの時価は、元利金の合計額を、新規にリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (4) 社債  
当社の発行する社債の時価は、元利金の合計額を、当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

**デリバティブ取引**

**金利関連**

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成23年3月31日)		
			契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	712,645	499,260	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	496,144
公社債投信等	600,696

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	8,142,695	-	-	-
受取手形及び売掛金	8,323,941	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他	-	-	-	50,000
合計	16,466,637	-	-	50,000

(注) 4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	108,087	106,827	93,410	49,270	31,366	7,688

社債、長期借入金及びその他の有利子負債につきましては、連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1 満期保有目的の債券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	49,626	44,855	4,771
小計	49,626	44,855	4,771
合計	49,626	44,855	4,771

2 その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,775,550	1,038,291	737,258
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,775,550	1,038,291	737,258
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	19,063	20,092	1,028
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	19,063	20,092	1,028
合計	1,794,614	1,058,384	736,230

当連結会計年度（平成23年3月31日）

1 満期保有目的の債券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	49,640	43,325	6,315
小計	49,640	43,325	6,315
合計	49,640	43,325	6,315

2 その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,781,551	1,020,053	761,498
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	1,781,551	1,020,053	761,498
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	49,161	57,747	8,586
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	49,161	57,747	8,586
合計	1,830,712	1,077,800	752,911

（デリバティブ取引関係）

前連結会計年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当するものではありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

注記事項「金融商品関係 2 金融商品の時価等に関する事項」をご参照下さい。

当連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当するものではありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

注記事項「金融商品関係 2 金融商品の時価等に関する事項」をご参照下さい。

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																																												
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、従業員退職金制度について確定給付企業年金制度及び確定拠出年金制度を採用しております。連結子会社5社については、従業員退職金制度の全てについて確定給付企業年金制度を採用しております。連結子会社1社については、従業員退職金制度の全てについて退職一時金制度を採用しております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>理研計器北海道サービス株式会社で採用しております。中小企業退職金共済制度については、理研サービス株式会社との合併により確定給付企業年金制度へと移行しております。</p> <p>また、連結子会社5社は、適格退職年金制度から確定給付企業年金制度へと移行しております。</p> <p>なお、これらによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">2,715,953千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">2,447,308千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">268,645千円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表計上額純額</td> <td style="text-align: right;">268,645千円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">240千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">268,885千円</td> </tr> </table> <p>なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">186,023千円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">19,752千円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">29,484千円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">51,414千円</td> </tr> <tr> <td>臨時に支払った割増退職金等</td> <td style="text-align: right;">689千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">125,566千円</td> </tr> </table> <p>(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: right;">1.5%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">2.5%</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">発生時一括処理</td> </tr> </table>	退職給付債務	2,715,953千円	年金資産	2,447,308千円	<hr/>		未積立退職給付債務	268,645千円	連結貸借対照表計上額純額	268,645千円	前払年金費用	240千円	<hr/>		退職給付引当金	268,885千円	勤務費用	186,023千円	利息費用	19,752千円	期待運用収益	29,484千円	数理計算上の差異の費用処理額	51,414千円	臨時に支払った割増退職金等	689千円	<hr/>		退職給付費用	125,566千円	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	1.5%	期待運用収益率	2.5%	数理計算上の差異の処理年数	発生時一括処理	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、従業員退職金制度について確定給付企業年金制度及び確定拠出年金制度を採用しております。連結子会社3社については、従業員退職金制度の全てについて確定給付企業年金制度を採用しております。連結子会社1社については、従業員退職金制度の全てについて退職一時金制度を採用しております。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">2,741,117千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">2,639,349千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">101,768千円</td> </tr> <tr> <td>連結貸借対照表計上額純額</td> <td style="text-align: right;">101,768千円</td> </tr> <tr> <td>前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">-千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">101,768千円</td> </tr> </table> <p>なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">74,785千円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">20,232千円</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">39,120千円</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">17,519千円</td> </tr> <tr> <td>臨時に支払った割増退職金等</td> <td style="text-align: right;">1,863千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">40,241千円</td> </tr> </table> <p>(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>割引率</td> <td style="text-align: right;">1.5%</td> </tr> <tr> <td>期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">3.0%</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">発生時一括処理</td> </tr> </table>	退職給付債務	2,741,117千円	年金資産	2,639,349千円	<hr/>		未積立退職給付債務	101,768千円	連結貸借対照表計上額純額	101,768千円	前払年金費用	-千円	<hr/>		退職給付引当金	101,768千円	勤務費用	74,785千円	利息費用	20,232千円	期待運用収益	39,120千円	数理計算上の差異の費用処理額	17,519千円	臨時に支払った割増退職金等	1,863千円	<hr/>		退職給付費用	40,241千円	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	1.5%	期待運用収益率	3.0%	数理計算上の差異の処理年数	発生時一括処理
退職給付債務	2,715,953千円																																																																												
年金資産	2,447,308千円																																																																												
<hr/>																																																																													
未積立退職給付債務	268,645千円																																																																												
連結貸借対照表計上額純額	268,645千円																																																																												
前払年金費用	240千円																																																																												
<hr/>																																																																													
退職給付引当金	268,885千円																																																																												
勤務費用	186,023千円																																																																												
利息費用	19,752千円																																																																												
期待運用収益	29,484千円																																																																												
数理計算上の差異の費用処理額	51,414千円																																																																												
臨時に支払った割増退職金等	689千円																																																																												
<hr/>																																																																													
退職給付費用	125,566千円																																																																												
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																																																																												
割引率	1.5%																																																																												
期待運用収益率	2.5%																																																																												
数理計算上の差異の処理年数	発生時一括処理																																																																												
退職給付債務	2,741,117千円																																																																												
年金資産	2,639,349千円																																																																												
<hr/>																																																																													
未積立退職給付債務	101,768千円																																																																												
連結貸借対照表計上額純額	101,768千円																																																																												
前払年金費用	-千円																																																																												
<hr/>																																																																													
退職給付引当金	101,768千円																																																																												
勤務費用	74,785千円																																																																												
利息費用	20,232千円																																																																												
期待運用収益	39,120千円																																																																												
数理計算上の差異の費用処理額	17,519千円																																																																												
臨時に支払った割増退職金等	1,863千円																																																																												
<hr/>																																																																													
退職給付費用	40,241千円																																																																												
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																																																																												
割引率	1.5%																																																																												
期待運用収益率	3.0%																																																																												
数理計算上の差異の処理年数	発生時一括処理																																																																												

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)  
該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																																																																				
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金否認</td><td style="text-align: right;">153,557千円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損否認</td><td style="text-align: right;">48,432千円</td></tr> <tr><td>未払事業税否認</td><td style="text-align: right;">20,126千円</td></tr> <tr><td>未払金否認</td><td style="text-align: right;">45,363千円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金否認</td><td style="text-align: right;">39,090千円</td></tr> <tr><td>受注損失引当金否認</td><td style="text-align: right;">8,406千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">161,890千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">476,867千円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">84,132千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金否認</td><td style="text-align: right;">112,017千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金否認</td><td style="text-align: right;">189,600千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損否認</td><td style="text-align: right;">94,406千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">22,538千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">36,637千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">539,333千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">1,016,201千円</td></tr></table> <p>評価性引当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">116,944千円</td></tr></table> <p>繰延税金資産再計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">899,256千円</td></tr></table> <p>(繰延税金負債)</p> <p>流動負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>一年内特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">5,235千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">362千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">5,598千円</td></tr> </table> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">299,645千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">299,645千円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">305,244千円</td></tr></table> <p>差引：繰延税金資産純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">594,012千円</td></tr></table>	賞与引当金損金否認	153,557千円	たな卸資産評価損否認	48,432千円	未払事業税否認	20,126千円	未払金否認	45,363千円	製品保証引当金否認	39,090千円	受注損失引当金否認	8,406千円	その他	161,890千円	計	476,867千円	建物減価償却超過額	84,132千円	退職給付引当金否認	112,017千円	役員退職慰労引当金否認	189,600千円	投資有価証券評価損否認	94,406千円	ゴルフ会員権評価損否認	22,538千円	その他	36,637千円	計	539,333千円		1,016,201千円		116,944千円		899,256千円	一年内特別償却準備金	5,235千円	その他	362千円	計	5,598千円	その他有価証券評価差額金	299,645千円	計	299,645千円		305,244千円		594,012千円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金否認</td><td style="text-align: right;">185,759千円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損否認</td><td style="text-align: right;">71,149千円</td></tr> <tr><td>未払事業税否認</td><td style="text-align: right;">73,926千円</td></tr> <tr><td>未払金否認</td><td style="text-align: right;">67,400千円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金否認</td><td style="text-align: right;">36,078千円</td></tr> <tr><td>受注損失引当金否認</td><td style="text-align: right;">5,094千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">185,497千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">624,905千円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">94,936千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金否認</td><td style="text-align: right;">42,622千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金否認</td><td style="text-align: right;">145,624千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損否認</td><td style="text-align: right;">94,488千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">23,250千円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">24,517千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">29,864千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">455,304千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">1,080,210千円</td></tr></table> <p>評価性引当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">117,738千円</td></tr></table> <p>繰延税金資産再計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">962,471千円</td></tr></table> <p>(繰延税金負債)</p> <p>流動負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他の評価差額</td><td style="text-align: right;">805千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">805千円</td></tr> </table> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">306,435千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right;">306,435千円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債合計</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">307,240千円</td></tr></table> <p>差引：繰延税金資産純額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td></td><td style="text-align: right;">655,231千円</td></tr></table>	賞与引当金損金否認	185,759千円	たな卸資産評価損否認	71,149千円	未払事業税否認	73,926千円	未払金否認	67,400千円	製品保証引当金否認	36,078千円	受注損失引当金否認	5,094千円	その他	185,497千円	計	624,905千円	建物減価償却超過額	94,936千円	退職給付引当金否認	42,622千円	役員退職慰労引当金否認	145,624千円	投資有価証券評価損否認	94,488千円	ゴルフ会員権評価損否認	23,250千円	減損損失	24,517千円	その他	29,864千円	計	455,304千円		1,080,210千円		117,738千円		962,471千円	その他の評価差額	805千円	計	805千円	その他有価証券評価差額金	306,435千円	計	306,435千円		307,240千円		655,231千円
賞与引当金損金否認	153,557千円																																																																																																				
たな卸資産評価損否認	48,432千円																																																																																																				
未払事業税否認	20,126千円																																																																																																				
未払金否認	45,363千円																																																																																																				
製品保証引当金否認	39,090千円																																																																																																				
受注損失引当金否認	8,406千円																																																																																																				
その他	161,890千円																																																																																																				
計	476,867千円																																																																																																				
建物減価償却超過額	84,132千円																																																																																																				
退職給付引当金否認	112,017千円																																																																																																				
役員退職慰労引当金否認	189,600千円																																																																																																				
投資有価証券評価損否認	94,406千円																																																																																																				
ゴルフ会員権評価損否認	22,538千円																																																																																																				
その他	36,637千円																																																																																																				
計	539,333千円																																																																																																				
	1,016,201千円																																																																																																				
	116,944千円																																																																																																				
	899,256千円																																																																																																				
一年内特別償却準備金	5,235千円																																																																																																				
その他	362千円																																																																																																				
計	5,598千円																																																																																																				
その他有価証券評価差額金	299,645千円																																																																																																				
計	299,645千円																																																																																																				
	305,244千円																																																																																																				
	594,012千円																																																																																																				
賞与引当金損金否認	185,759千円																																																																																																				
たな卸資産評価損否認	71,149千円																																																																																																				
未払事業税否認	73,926千円																																																																																																				
未払金否認	67,400千円																																																																																																				
製品保証引当金否認	36,078千円																																																																																																				
受注損失引当金否認	5,094千円																																																																																																				
その他	185,497千円																																																																																																				
計	624,905千円																																																																																																				
建物減価償却超過額	94,936千円																																																																																																				
退職給付引当金否認	42,622千円																																																																																																				
役員退職慰労引当金否認	145,624千円																																																																																																				
投資有価証券評価損否認	94,488千円																																																																																																				
ゴルフ会員権評価損否認	23,250千円																																																																																																				
減損損失	24,517千円																																																																																																				
その他	29,864千円																																																																																																				
計	455,304千円																																																																																																				
	1,080,210千円																																																																																																				
	117,738千円																																																																																																				
	962,471千円																																																																																																				
その他の評価差額	805千円																																																																																																				
計	805千円																																																																																																				
その他有価証券評価差額金	306,435千円																																																																																																				
計	306,435千円																																																																																																				
	307,240千円																																																																																																				
	655,231千円																																																																																																				
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.4</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.3</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">3.6</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">1.8</td></tr> <tr><td>持分法投資利益</td><td style="text-align: right;">0.9</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.6</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">38.5</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.4	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	税額控除	3.6	住民税均等割等	1.8	持分法投資利益	0.9	その他	0.6	税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.5	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.2</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.8</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">2.8</td></tr> <tr><td>住民税均等割等</td><td style="text-align: right;">1.3</td></tr> <tr><td>持分法投資利益</td><td style="text-align: right;">1.2</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.7</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">36.7</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.8	税額控除	2.8	住民税均等割等	1.3	持分法投資利益	1.2	その他	0.7	税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.7																																																																
法定実効税率	40.7%																																																																																																				
(調整)																																																																																																					
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.4																																																																																																				
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3																																																																																																				
税額控除	3.6																																																																																																				
住民税均等割等	1.8																																																																																																				
持分法投資利益	0.9																																																																																																				
その他	0.6																																																																																																				
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.5																																																																																																				
法定実効税率	40.7%																																																																																																				
(調整)																																																																																																					
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2																																																																																																				
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.8																																																																																																				
税額控除	2.8																																																																																																				
住民税均等割等	1.3																																																																																																				
持分法投資利益	1.2																																																																																																				
その他	0.7																																																																																																				
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.7																																																																																																				

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度(平成23年3月31日)

当社グループは、事務所等の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務と認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

なお、当連結会計年度の負担に属する金額は、見込まれる入居期間に基づいて算定しております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

当社グループは、各種産業用測定機器の製造、販売を主事業としている専門メーカーですが、1セグメントの売上高は、全セグメントの売上高合計の90%超(当連結会計年度99.3%)であり、かつ、当該セグメントの営業利益が営業利益の生じているセグメントの営業利益の合計額の90%超(当連結会計年度99.3%)、当該セグメントの資産が全セグメントの資産合計額の90%超(当連結会計年度99.5%)となっております。

また、当該セグメント以外に開示基準に該当するセグメントがありません。このため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

本邦の売上高及び資産の金額は全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

海外売上高及び連結売上高に占める海外売上高の割合は、次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	アジア	北米	欧州	その他の地域	計
海外売上高 (千円)	1,510,092	639,096	358,047	96,248	2,603,486
連結売上高 (千円)					17,314,508
連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	8.7	3.7	2.1	0.5	15.0

(注) 1 海外売上高は、当社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

2 国または地域の区分の方法及び各区分に属する主な国または地域

(1) 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国または地域

アジア ..... 中国、韓国、台湾、シンガポール

北米 ..... アメリカ

欧州 ..... ノルウェイ、イギリス

その他の地域 ... ブラジル、オーストラリア

【セグメント情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、報告セグメントに関する情報の記載を省略しております。

【関連情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報 (単位：千円)

定置型ガス検知警報機器	可搬型ガス検知警報機器	その他測定機器	合 計
13,359,324	5,637,128	1,047,186	20,043,638

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高 (単位：千円)

日 本	アジア	その他の地域	合 計
16,471,722	2,098,991	1,472,924	20,043,638

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める特定の外部顧客はないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社グループの事業は、各種産業用測定機器の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	972円73銭	1株当たり純資産額	1,035円63銭
1株当たり当期純利益	59円27銭	1株当たり当期純利益	81円22銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

（注）1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益（千円）	1,376,414	1,885,760
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	1,376,414	1,885,760
期中平均株式数（千株）	23,222	23,218

（重要な後発事象）

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
理研計器株式会社	第6回無担保社債	平成19年12月21日	300,000	300,000	年1.88	無	平成24年12月21日
理研計器株式会社	第7回無担保社債	平成20年3月31日	100,000	100,000	年1.22	無	平成25年3月29日
合計	-	-	400,000	400,000	-	-	-

（注）連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
-	400,000	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	550,000	650,000	1.475	-
1年以内に返済予定の長期借入金	424,325	447,385	1.775	-
1年以内に返済予定のリース債務	82,261	108,087	3.511	-
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く）	945,145	942,760	1.635	平成24年から平成28年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く）	258,997	288,563	3.503	平成24年から平成30年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,260,728	2,436,795	-	-

（注）1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 1年以内に返済予定の長期借入金は、連結貸借対照表においては流動負債の「短期借入金」に含めて表示しております。



- 3 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	380,180	276,410	194,115	92,055
リース債務	106,827	93,410	49,270	31,366

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高 (千円)	4,708,353	5,164,460	4,932,446	5,238,378
税金等調整前四半期 純利益金額 (千円)	667,808	835,740	669,832	807,328
四半期純利益金額 (千円)	437,757	542,088	422,551	483,362
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	18.85	23.35	18.20	20.82

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,074,703	4,585,007
受取手形	1,617,049	1,797,149
売掛金	2 5,833,359	2 6,158,779
有価証券	600,263	600,696
商品及び製品	1,257,692	1,749,342
仕掛品	953,508	1,485,559
原材料及び貯蔵品	362,789	349,901
繰延税金資産	310,545	436,629
未収入金	2 532,355	2 477,329
その他	138,666	135,626
貸倒引当金	6,527	10,100
流動資産合計	15,674,406	17,765,922
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 5,135,445	1 5,005,400
減価償却累計額	3,285,882	3,328,404
建物(純額)	1,849,562	1,676,995
構築物	191,370	190,237
減価償却累計額	155,156	156,636
構築物(純額)	36,214	33,600
機械及び装置	834,486	818,356
減価償却累計額	701,454	721,588
機械及び装置(純額)	133,032	96,767
車両運搬具	16,078	15,678
減価償却累計額	12,568	13,293
車両運搬具(純額)	3,510	2,385
工具、器具及び備品	2,063,381	2,082,663
減価償却累計額	1,893,220	1,922,796
工具、器具及び備品(純額)	170,160	159,867
土地	3,684,059	3,586,480
リース資産	403,170	542,391
減価償却累計額	103,460	194,606
リース資産(純額)	299,710	347,784
建設仮勘定	120,511	216,654
有形固定資産合計	6,296,761	6,120,536

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	78,070	536,439
ソフトウェア仮勘定	390,321	470
電話加入権	11,872	11,872
無形固定資産合計	480,263	548,782
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,854,240	1,880,352
関係会社株式	540,259	540,259
その他の関係会社有価証券	21,784	21,784
従業員に対する長期貸付金	1,330	770
破産更生債権等	19,044	10,024
長期前払費用	51,121	44,374
生命保険積立金	152,723	181,338
その他	75,421	76,033
貸倒引当金	47,194	37,624
投資その他の資産合計	2,668,732	2,717,314
固定資産合計	9,445,757	9,386,633
資産合計	25,120,163	27,152,555
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	59,898	50,205
買掛金	2,782,474	3,161,178
短期借入金	550,000	650,000
1年内返済予定の長期借入金	424,325	447,385
リース債務	81,180	106,969
未払金	434,248	432,067
未払費用	149,663	148,722
未払法人税等	97,985	702,535
前受金	20,295	41,206
預り金	31,564	24,668
賞与引当金	322,235	392,043
製品保証引当金	96,046	88,643
受注損失引当金	20,655	12,516
災害損失引当金	-	8,262
設備関係支払手形	5,294	3,954
その他	18,722	689
流動負債合計	5,094,589	6,271,048

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	400,000	400,000
長期借入金	945,145	942,760
リース債務	250,319	280,975
繰延税金負債	163,599	162,173
長期預り保証金	3,500	3,500
退職給付引当金	67,438	21,405
長期未払金	121,252	118,799
固定負債合計	1,951,255	1,929,613
負債合計	7,045,844	8,200,662
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,565,500	2,565,500
資本剰余金		
資本準備金	2,545,508	2,545,508
その他資本剰余金	280,710	280,710
資本剰余金合計	2,826,219	2,826,219
利益剰余金		
利益準備金	422,405	422,405
その他利益剰余金		
特別償却準備金	7,628	-
別途積立金	10,915,500	11,115,500
繰越利益剰余金	1,135,079	1,811,127
利益剰余金合計	12,480,613	13,349,032
自己株式	234,598	235,335
株主資本合計	17,637,734	18,505,416
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	436,584	446,476
評価・換算差額等合計	436,584	446,476
純資産合計	18,074,319	18,951,893
負債純資産合計	25,120,163	27,152,555

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	17,150,718	19,703,805
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	1,022,587	766,864
当期製品製造原価	1 7,421,878	1 8,608,408
当期商品仕入高	2 3,418,023	2 4,083,480
商品及び製品期末たな卸高	766,864	1,063,134
売上原価合計	11,095,626	12,395,618
売上総利益	6,055,092	7,308,186
販売費及び一般管理費	3, 4 5,031,735	3, 4 5,284,238
営業利益	1,023,356	2,023,947
営業外収益		
受取利息	3,111	2,721
受取配当金	131,041	150,076
不動産賃貸料	5 33,673	5 34,473
受取事務手数料	6 14,550	6 12,300
雑収入	38,135	33,884
営業外収益合計	220,512	233,457
営業外費用		
支払利息	46,141	43,405
社債利息	7,314	7,159
為替差損	22,924	96,321
雑損失	2,185	213
営業外費用合計	78,565	147,100
経常利益	1,165,303	2,110,305
特別利益		
固定資産売却益	7 293,476	-
貸倒引当金戻入額	400	550
特別利益合計	293,876	550
特別損失		
固定資産売却損	8 1,654	8 22,295
固定資産除却損	9 44,389	9 3,303
投資有価証券評価損	-	10,000
ゴルフ会員権評価損	-	2,300
減損損失	-	10 60,240
災害による損失	-	11 41,122
特別損失合計	46,044	139,261
税引前当期純利益	1,413,135	1,971,593
法人税、住民税及び事業税	360,065	842,095
法人税等調整額	155,585	134,300
法人税等合計	515,651	707,795
当期純利益	897,484	1,263,798

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
原材料費		4,829,666	52.0	6,395,448	56.3
労務費		2,181,157	23.5	2,345,688	20.7
製造経費		2,270,899	24.5	2,608,423	23.0
（外注加工費）		(876,281)		(1,295,641)	
（減価償却費）		(417,363)		(372,774)	
当期総製造費用		9,281,723	100.0	11,349,560	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,035,089		953,508	
合計		10,316,813		12,303,069	
他勘定へ振替高	1	1,941,425		2,209,101	
期末仕掛品たな卸高		953,508		1,485,559	
当期製品製造原価		7,421,878		8,608,408	

(注)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	
原価計算の方法 実際原価による組別総合原価計算		原価計算の方法 同左	
1 他勘定へ振替高		1 他勘定へ振替高	
固定資産へ	564,863千円	固定資産へ	801,590千円
研究開発費へ	949,216千円	研究開発費へ	948,182千円
販売支援費へ	427,345千円	販売支援費へ	459,327千円
計	1,941,425千円	計	2,209,101千円

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	2,565,500	2,565,500
当期末残高	2,565,500	2,565,500
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	2,545,508	2,545,508
当期末残高	2,545,508	2,545,508
<b>その他資本剰余金</b>		
前期末残高	280,710	280,710
当期末残高	280,710	280,710
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	2,826,219	2,826,219
当期末残高	2,826,219	2,826,219
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
前期末残高	422,405	422,405
当期末残高	422,405	422,405
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>特別償却準備金</b>		
前期末残高	15,257	7,628
<b>当期変動額</b>		
特別償却準備金の取崩	7,628	7,628
<b>当期変動額合計</b>	7,628	7,628
<b>当期末残高</b>	7,628	-
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	10,415,500	10,915,500
<b>当期変動額</b>		
別途積立金の積立	500,000	200,000
<b>当期変動額合計</b>	500,000	200,000
<b>当期末残高</b>	10,915,500	11,115,500
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	1,195,136	1,135,079
<b>当期変動額</b>		
別途積立金の積立	500,000	200,000
特別償却準備金の取崩	7,628	7,628
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	897,484	1,263,798
<b>当期変動額合計</b>	60,056	676,047
<b>当期末残高</b>	1,135,079	1,811,127
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	12,048,299	12,480,613
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	897,484	1,263,798
<b>当期変動額合計</b>	432,314	868,418
<b>当期末残高</b>	12,480,613	13,349,032

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<b>自己株式</b>		
前期末残高	234,090	234,598
当期変動額		
自己株式の取得	507	736
当期変動額合計	507	736
当期末残高	234,598	235,335
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	17,205,927	17,637,734
当期変動額		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	897,484	1,263,798
自己株式の取得	507	736
当期変動額合計	431,806	867,681
当期末残高	17,637,734	18,505,416
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	190,734	436,584
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	245,850	9,892
当期変動額合計	245,850	9,892
当期末残高	436,584	446,476
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	17,396,662	18,074,319
当期変動額		
剰余金の配当	465,169	395,379
当期純利益	897,484	1,263,798
自己株式の取得	507	736
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	245,850	9,892
当期変動額合計	677,657	877,574
当期末残高	18,074,319	18,951,893



【重要な会計方針】

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法 (1) 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法) (2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (3) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法</p>	<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法 (1) 満期保有目的の債券 同左 (2) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (3) その他有価証券 時価のあるもの 同左  時価のないもの 同左</p>
<p>2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法 時価法 (ただし、特例処理の要件を充たす金利スワップ取引については時価評価せず、その金銭の受払の純額を金利変換の対象となる借入債務に係る利息に加減して処理)</p>	<p>2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法 同左</p>
<p>3 たな卸資産の評価基準及び評価方法 (1) 商品及び製品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) ただし、一部製品については、個別原価法 (2) 仕掛品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法) ただし、一部仕掛品については、個別原価法 (3) 原材料及び貯蔵品 総平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)</p>	<p>3 たな卸資産の評価基準及び評価方法 (1) 商品及び製品 同左 (2) 仕掛品 同左 (3) 原材料及び貯蔵品 同左</p>
<p>4 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 31~50年 機械及び装置 7年 (2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェア 社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 (3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>4 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左 (2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェア 同左 (3) リース資産 同左</p>

<p>前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>5 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対する賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 製品保証引当金 保証期間中に発生が見込まれるアフターサービス費用に備えるため、過去の支出実績を基準にして算出した見積額を計上しております。</p> <p>(4) 受注損失引当金 受注済製品の販売時の損失に備えるため、事業年度末における未引渡しの受注済製品に対し、販売時に見込まれる損失相当額を計上しております。</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、数理計算上の差異(51,414千円)は、発生時に全額費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 なお、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>(6)</p>	<p>5 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 製品保証引当金 同左</p> <p>(4) 受注損失引当金 同左</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、数理計算上の差異(17,519千円)は、発生時に全額費用処理しております。</p> <p>(6) 災害損失引当金 災害により損傷した営業所建物の解体等の支払に備えるため、支出見込額を計上しております。</p>

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>6 収益及び費用の計上基準 完成工事高及び完成工事原価の計上基準 イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確 実性が認められる工事 工事進行基準 (工事の進捗率の見積りは原価比例法) ロ その他の工事 工事完成基準 (会計方針の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完 成基準を適用しておりましたが、当事業年度より「工事契 約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年 2 月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」 (企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適 用し、当事業年度に着手した工事契約から当事業年度末ま での進捗部分について成果の確実性が認められる工事に ついては工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例 法)を、その他の工事については工事完成基準を適用して おります。 これにより、売上高、営業利益、経常利益及び税引前当期純 利益に与える影響はありません。</p>	<p>6 収益及び費用の計上基準 完成工事高及び完成工事原価の計上基準 イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確 実性が認められる工事 同左  ロ その他の工事 同左</p>
<p>7 ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 金利スワップ取引について特例処理の条件を充た している場合には特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段：金利スワップ ヘッジ対象：借入金利 ヘッジ方針 金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象 債務の範囲内でヘッジを行っております。 ヘッジの有効性評価の方法 特例処理によっている金利スワップ取引について は、有効性の判定を省略しております。</p>	<p>7 ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左  ヘッジ手段とヘッジ対象 同左  ヘッジ方針 同左  ヘッジの有効性評価の方法 同左</p>
<p>8 その他財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>	<p>8 その他財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企 業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債 務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指 針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 なお、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利 益に与える影響はありません。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
1 国庫補助金による有形固定資産(建物)の圧縮記帳額 132,425千円	1 国庫補助金による有形固定資産(建物)の圧縮記帳額 132,425千円
2 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている 関係会社に対するものは、次のとおりであります。	2 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている 関係会社に対するものは、次のとおりであります。
売掛金 509,878千円	売掛金 614,488千円
未収入金 470,123千円	未収入金 387,389千円
買掛金 910,723千円	買掛金 843,392千円

(損益計算書関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
1 当期製品製造原価には、関係会社からの仕入高が 1,497,877千円含まれております。	1 当期製品製造原価には、関係会社からの仕入高が 2,146,145千円含まれております。
2 当期仕入高には、関係会社からの仕入高が3,087,751千 円含まれております。	2 当期仕入高には、関係会社からの仕入高が5,582,475千 円含まれております。
3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額	3 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額
支払手数料 369,543千円	支払手数料 467,406千円
広告宣伝費 75,501千円	広告宣伝費 70,622千円
給料及び手当 1,611,738千円	給料及び手当 1,660,166千円
賞与引当金繰入額 153,557千円	賞与引当金繰入額 183,620千円
退職給付費用 52,255千円	退職給付費用 66,750千円
減価償却費 77,685千円	減価償却費 72,752千円
研究開発費 949,216千円	研究開発費 948,182千円
販売支援費 427,345千円	販売支援費 459,327千円
なお、販売費及び一般管理費のうち、販売費の割合は 約60%であります。	なお、販売費及び一般管理費のうち、販売費の割合は 約61%であります。
4 当期の研究開発費は949,216千円であり、全額を一般管 理費に計上しております。	4 当期の研究開発費は948,182千円であり、全額を一般管 理費に計上しております。
5 不動産賃貸料には関係会社からのものが33,483千円含 まれております。	5 不動産賃貸料には関係会社からのものが34,473千円含 まれております。
6 受取事務手数料には関係会社からのものが13,350千円 含まれています。	6 受取事務手数料には関係会社からのものが12,300千円 含まれています。
7 固定資産売却益は、土地293,471千円、機械及び装置5千 円であります。	
8 固定資産売却損は、土地975千円、建物678千円でありま す。	8 固定資産売却損は、土地17,771千円、建物4,507千円、構 築物8千円、工具、器具及び備品7千円であります。
9 固定資産除却損は、機械及び装置41,803千円、工具、器 具及び備品2,586千円であります。	9 固定資産除却損は、工具、器具及び備品2,225千円、建物 628千円、機械及び装置442千円、車両及び運搬具7千円 であります。

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																
	<p>10 固定資産減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上いたしました。</p> <p>(1) 減損損失を認識した資産の概要</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">茨城県水戸市</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 減損損失の認識に至った経緯 東日本大震災に伴う営業所移転により、上記資産は事業の用に直接供していない遊休資産となりました。当該遊休資産は時価が著しく下落しているため、減損損失を計上いたしました。</p> <p>(3) 減損損失の金額 上記資産に係る減損損失額は60,240千円であります。</p> <p>(4) 資産のグルーピング方法 当社は、各種産業用測定機器の製造、販売を主事業としている専門メーカーであり、単一グループにしております。しかし、遊休資産については個別に取扱いをしております。</p> <p>(5) 回収可能価額の算定方法 資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、路線価に基づく評価額により評価しております。</p> <p>11 災害による損失 東日本大震災によるものであり、内訳は下記の通りであります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>固定資産の滅失損失</td> <td style="text-align: right;">25,537千円</td> </tr> <tr> <td>災害により損壊した資産の撤去費用等</td> <td style="text-align: right;">7,500千円</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産の滅失損失</td> <td style="text-align: right;">4,841千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">3,243千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">41,122千円</td> </tr> </table>	場所	用途	種類	茨城県水戸市	遊休資産	土地	固定資産の滅失損失	25,537千円	災害により損壊した資産の撤去費用等	7,500千円	たな卸資産の滅失損失	4,841千円	その他	3,243千円	計	41,122千円
場所	用途	種類															
茨城県水戸市	遊休資産	土地															
固定資産の滅失損失	25,537千円																
災害により損壊した資産の撤去費用等	7,500千円																
たな卸資産の滅失損失	4,841千円																
その他	3,243千円																
計	41,122千円																

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式(注)	402,378	860	-	403,238
合計	402,378	860	-	403,238

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加860株は、全て単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式(注)	403,238	1,121	-	404,359
合計	403,238	1,121	-	404,359

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1,121株は、全て単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																								
<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>1. リース資産の内容 生産設備(機械及び装置)及び工具、器具及び備品であります。</p> <p>2. リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (千円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却累 計額相当額 (千円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">1,128,007</td> <td style="text-align: right;">586,916</td> <td style="text-align: right;">541,091</td> </tr> <tr> <td>工具、器具 及び備品</td> <td style="text-align: right;">347,408</td> <td style="text-align: right;">186,808</td> <td style="text-align: right;">160,600</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: right;">1,475,416</td> <td style="text-align: right;">773,724</td> <td style="text-align: right;">701,691</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">233,108千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">512,772千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">745,881千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">306,744千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">275,095千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">28,952千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 利息相当額の算定方法 ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	機械及び装置	1,128,007	586,916	541,091	工具、器具 及び備品	347,408	186,808	160,600	合計	1,475,416	773,724	701,691	1年内	233,108千円	1年超	512,772千円	計	745,881千円	支払リース料	306,744千円	減価償却費相当額	275,095千円	支払利息相当額	28,952千円	<p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>1. リース資産の内容 同左</p> <p>2. リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (千円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却累 計額相当額 (千円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">976,609</td> <td style="text-align: right;">591,509</td> <td style="text-align: right;">385,100</td> </tr> <tr> <td>工具、器具 及び備品</td> <td style="text-align: right;">320,731</td> <td style="text-align: right;">232,865</td> <td style="text-align: right;">87,865</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: right;">1,297,341</td> <td style="text-align: right;">824,374</td> <td style="text-align: right;">472,966</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">196,804千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">315,967千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">512,772千円</td> </tr> </table> <p>(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">254,030千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">228,725千円</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">20,922千円</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法 同左  利息相当額の算定方法 同左</p>		取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)	機械及び装置	976,609	591,509	385,100	工具、器具 及び備品	320,731	232,865	87,865	合計	1,297,341	824,374	472,966	1年内	196,804千円	1年超	315,967千円	計	512,772千円	支払リース料	254,030千円	減価償却費相当額	228,725千円	支払利息相当額	20,922千円
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																																																						
機械及び装置	1,128,007	586,916	541,091																																																						
工具、器具 及び備品	347,408	186,808	160,600																																																						
合計	1,475,416	773,724	701,691																																																						
1年内	233,108千円																																																								
1年超	512,772千円																																																								
計	745,881千円																																																								
支払リース料	306,744千円																																																								
減価償却費相当額	275,095千円																																																								
支払利息相当額	28,952千円																																																								
	取得価額 相当額 (千円)	減価償却累 計額相当額 (千円)	期末残高 相当額 (千円)																																																						
機械及び装置	976,609	591,509	385,100																																																						
工具、器具 及び備品	320,731	232,865	87,865																																																						
合計	1,297,341	824,374	472,966																																																						
1年内	196,804千円																																																								
1年超	315,967千円																																																								
計	512,772千円																																																								
支払リース料	254,030千円																																																								
減価償却費相当額	228,725千円																																																								
支払利息相当額	20,922千円																																																								

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式466,534千円、関連会社株式95,510千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式466,534千円、関連会社株式95,510千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)																																																																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金否認</td><td style="text-align: right;">131,149千円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損否認</td><td style="text-align: right;">43,751千円</td></tr> <tr><td>未払事業税否認</td><td style="text-align: right;">12,047千円</td></tr> <tr><td>未払金否認</td><td style="text-align: right;">45,363千円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金否認</td><td style="text-align: right;">39,090千円</td></tr> <tr><td>受注損失引当金否認</td><td style="text-align: right;">8,406千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">35,971千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">315,781千円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">49,089千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">27,447千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金否認</td><td style="text-align: right;">48,351千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損否認</td><td style="text-align: right;">94,406千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">22,538千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">11,158千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">252,990千円</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">568,771千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">116,944千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産再計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">451,826千円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <p>流動負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>一年内特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">5,235千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,235千円</td></tr> </table> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">299,645千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">299,645千円</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">304,881千円</td></tr> <tr><td>差引：繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">146,945千円</td></tr> </table>	賞与引当金損金否認	131,149千円	たな卸資産評価損否認	43,751千円	未払事業税否認	12,047千円	未払金否認	45,363千円	製品保証引当金否認	39,090千円	受注損失引当金否認	8,406千円	その他	35,971千円	計	315,781千円	建物減価償却超過額	49,089千円	退職給付引当金	27,447千円	役員退職慰労引当金否認	48,351千円	投資有価証券評価損否認	94,406千円	ゴルフ会員権評価損否認	22,538千円	その他	11,158千円	計	252,990千円	繰延税金資産合計	568,771千円	評価性引当額	116,944千円	繰延税金資産再計	451,826千円	一年内特別償却準備金	5,235千円	計	5,235千円	その他有価証券評価差額金	299,645千円	計	299,645千円	繰延税金負債合計	304,881千円	差引：繰延税金資産純額	146,945千円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金否認</td><td style="text-align: right;">159,561千円</td></tr> <tr><td>たな卸資産評価損否認</td><td style="text-align: right;">66,137千円</td></tr> <tr><td>未払事業税否認</td><td style="text-align: right;">60,290千円</td></tr> <tr><td>未払金否認</td><td style="text-align: right;">67,400千円</td></tr> <tr><td>製品保証引当金否認</td><td style="text-align: right;">36,078千円</td></tr> <tr><td>受注損失引当金否認</td><td style="text-align: right;">5,094千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">42,066千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">436,629千円</td></tr> </table> <p>固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物減価償却超過額</td><td style="text-align: right;">56,358千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">8,711千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金否認</td><td style="text-align: right;">48,351千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損否認</td><td style="text-align: right;">94,488千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損否認</td><td style="text-align: right;">23,250千円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">24,517千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">6,321千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">262,000千円</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">698,629千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">117,738千円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産再計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">580,891千円</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <p>固定負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">306,435千円</td></tr> <tr><td style="text-align: right;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">306,435千円</td></tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">306,435千円</td></tr> <tr><td>差引：繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">274,456千円</td></tr> </table>	賞与引当金損金否認	159,561千円	たな卸資産評価損否認	66,137千円	未払事業税否認	60,290千円	未払金否認	67,400千円	製品保証引当金否認	36,078千円	受注損失引当金否認	5,094千円	その他	42,066千円	計	436,629千円	建物減価償却超過額	56,358千円	退職給付引当金	8,711千円	役員退職慰労引当金否認	48,351千円	投資有価証券評価損否認	94,488千円	ゴルフ会員権評価損否認	23,250千円	減損損失	24,517千円	その他	6,321千円	計	262,000千円	繰延税金資産合計	698,629千円	評価性引当額	117,738千円	繰延税金資産再計	580,891千円	その他有価証券評価差額金	306,435千円	計	306,435千円	繰延税金負債合計	306,435千円	差引：繰延税金資産純額	274,456千円
賞与引当金損金否認	131,149千円																																																																																														
たな卸資産評価損否認	43,751千円																																																																																														
未払事業税否認	12,047千円																																																																																														
未払金否認	45,363千円																																																																																														
製品保証引当金否認	39,090千円																																																																																														
受注損失引当金否認	8,406千円																																																																																														
その他	35,971千円																																																																																														
計	315,781千円																																																																																														
建物減価償却超過額	49,089千円																																																																																														
退職給付引当金	27,447千円																																																																																														
役員退職慰労引当金否認	48,351千円																																																																																														
投資有価証券評価損否認	94,406千円																																																																																														
ゴルフ会員権評価損否認	22,538千円																																																																																														
その他	11,158千円																																																																																														
計	252,990千円																																																																																														
繰延税金資産合計	568,771千円																																																																																														
評価性引当額	116,944千円																																																																																														
繰延税金資産再計	451,826千円																																																																																														
一年内特別償却準備金	5,235千円																																																																																														
計	5,235千円																																																																																														
その他有価証券評価差額金	299,645千円																																																																																														
計	299,645千円																																																																																														
繰延税金負債合計	304,881千円																																																																																														
差引：繰延税金資産純額	146,945千円																																																																																														
賞与引当金損金否認	159,561千円																																																																																														
たな卸資産評価損否認	66,137千円																																																																																														
未払事業税否認	60,290千円																																																																																														
未払金否認	67,400千円																																																																																														
製品保証引当金否認	36,078千円																																																																																														
受注損失引当金否認	5,094千円																																																																																														
その他	42,066千円																																																																																														
計	436,629千円																																																																																														
建物減価償却超過額	56,358千円																																																																																														
退職給付引当金	8,711千円																																																																																														
役員退職慰労引当金否認	48,351千円																																																																																														
投資有価証券評価損否認	94,488千円																																																																																														
ゴルフ会員権評価損否認	23,250千円																																																																																														
減損損失	24,517千円																																																																																														
その他	6,321千円																																																																																														
計	262,000千円																																																																																														
繰延税金資産合計	698,629千円																																																																																														
評価性引当額	117,738千円																																																																																														
繰延税金資産再計	580,891千円																																																																																														
その他有価証券評価差額金	306,435千円																																																																																														
計	306,435千円																																																																																														
繰延税金負債合計	306,435千円																																																																																														
差引：繰延税金資産純額	274,456千円																																																																																														
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">2.2</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">3.2</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">5.6</td></tr> <tr><td>住民税等均等割</td><td style="text-align: right;">2.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.1</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">36.5</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.2	税額控除	5.6	住民税等均等割	2.5	その他	0.1	税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.5	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.7%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.8</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">2.7</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">4.2</td></tr> <tr><td>住民税等均等割</td><td style="text-align: right;">1.8</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.5</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">35.9</td></tr> </table>	法定実効税率	40.7%	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.7	税額控除	4.2	住民税等均等割	1.8	その他	1.5	税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.9																																																														
法定実効税率	40.7%																																																																																														
(調整)																																																																																															
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2																																																																																														
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.2																																																																																														
税額控除	5.6																																																																																														
住民税等均等割	2.5																																																																																														
その他	0.1																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.5																																																																																														
法定実効税率	40.7%																																																																																														
(調整)																																																																																															
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8																																																																																														
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.7																																																																																														
税額控除	4.2																																																																																														
住民税等均等割	1.8																																																																																														
その他	1.5																																																																																														
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.9																																																																																														



(企業結合等関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	777円13銭	1株当たり純資産額	814円90銭
1株当たり当期純利益	38円59銭	1株当たり当期純利益	54円34銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益 (千円)	897,484	1,263,798
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (千円)	897,484	1,263,798
期中平均株式数 (千株)	23,258	23,257

(重要な後発事象)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他 有価証券	オイレス工業(株)	208,362	332,962
		興銀リース(株)	165,000	330,000
		大陽日酸(株)	350,859	243,145
		長野計器(株)	267,946	197,744
		日特エンジニアリング(株)	145,000	133,690
		(株)重松製作所	246,000	111,684
		(株)リケン	208,150	72,019
		太陽ホールディングス(株)	24,000	61,440
		N K S Jホールディングス(株)	107,370	58,301
		東亜建設工業(株)	270,000	44,820
		(株)パイテック	63,200	40,258
		(株)みずほフィナンシャルグループ	242,120	33,412
		科研製薬(株)	31,000	30,814
		その他13銘柄	322,626	140,419
計		2,651,633	1,830,712	

【債券】

銘柄		券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	満期保有 目的の債券	豪ドル・パワーリバースデュアル債	50,000	49,640
計		50,000	49,640	

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (千円)	
有価証券	その他 有価証券	(投資信託受益証券) 証券投資信託受益証券	600,696,852	600,696
計		600,696,852	600,696	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償 却累計額また は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	5,135,445	21,984	152,029	5,005,400	3,328,404	157,059	1,676,995
構築物	191,370	4,365	5,499	190,237	156,636	6,766	33,600
機械及び装置	834,486	4,009	20,139	818,356	721,588	39,831	96,767
車両運搬具	16,078	-	400	15,678	13,293	1,117	2,385
工具、器具及び備品	2,063,381	142,034	122,752	2,082,663	1,922,796	149,821	159,867
土地	3,684,059	-	(60,240)	3,586,480	-	-	3,586,480
リース資産	403,170	139,221	-	542,391	194,606	91,146	347,784
建設仮勘定	120,511	294,336	198,193	216,654	-	-	216,654
有形固定資産計	12,448,504	605,950	596,592 (60,240)	12,457,862	6,337,326	445,742	6,120,536
無形固定資産							
ソフトウェア	114,347	544,350	-	658,698	122,258	85,980	536,439
ソフトウェア仮勘定	390,321	162,316	552,167	470	-	-	470
電話加入権	11,872	-	-	11,872	-	-	11,872
無形固定資産計	516,541	706,666	552,167	671,041	122,258	85,980	548,782
長期前払費用	135,544	12,200	1,628	146,117	83,356	16,832	62,760
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

ソフトウェア 生産販売・原価管理システム 503,404千円

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物 水戸営業所 102,848千円

当資産は東日本大震災により被災し、使用不能となりました。

3. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	53,722	10,100	6,553	9,544	47,724
賞与引当金	322,235	392,043	322,235	-	392,043
製品保証引当金	96,046	88,643	96,046	-	88,643
受注損失引当金	20,655	12,516	20,655	-	12,516
災害損失引当金	-	8,262	-	-	8,262

(注) 貸倒引当金の当期減少額の「その他」は、一般債権の貸倒引当金洗替額6,527千円、破産更正債権等の戻入額2,467千円及びゴルフ会員権の貸倒引当金戻入額550千円によるものであります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	9,179
預金	
当座預金	1,752,676
普通預金	1,317,856
通知預金	670,000
定期預金	835,000
別段預金	258
振替貯金	35
計	4,575,827
合計	4,585,007

受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日本エア・リキード(株)	308,401
(株)理研商会	172,444
(株)ウエキコーポレーション	171,043
(株)三和精密	74,100
日本測器(株)	68,746
その他	1,002,414
合計	1,797,149

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成23年4月満期	429,903
平成23年5月満期	373,399
平成23年6月満期	442,051
平成23年7月満期	374,223
平成23年8月満期	147,727
平成23年9月以降満期	29,844
合計	1,797,149

売掛金  
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)巴商会	554,043
(株)東芝	551,261
(株)東横化学	355,643
大陽日酸エンジニアリング(株)	332,528
英和(株)	222,490
その他	4,142,812
合計	6,158,779

(注) 当社は一部の回収業務をファクタリング会社に委託するために売掛債権を譲渡しておりますが、当表は実質上の取引先である譲渡前の相手先を記載しております。

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
5,833,359	20,640,246	20,314,826	6,158,779	76.7	106.0

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品及び製品

区分	金額(千円)
定置型ガス検知警報機器	597,780
可搬型ガス検知警報機器	430,841
その他測定機器	34,512
センサ	259,024
受感部	236,853
その他	190,330
合計	1,749,342

仕掛品

区分	金額(千円)
定置型ガス検知警報機器	491,999
可搬型ガス検知警報機器	157,203
その他測定機器	75,232
半製品(センサ、受感部、その他)	761,124
合計	1,485,559

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
電気部品	155,678
機械部品	194,222
合計	349,901

支払手形（設備関係支払手形を含む）  
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
東レエンジニアリング(株)	20,164
(株)E.M.P	13,830
クーパー・インダストリーズ・ジャパン(株)	3,881
富士エレクトロニクス(株)	2,617
(株)立花エレテック	2,450
その他	11,217
合計	54,159

期日別内訳

期日	金額（千円）
平成23年4月満期	11,618
平成23年5月満期	14,376
平成23年6月満期	11,777
平成23年7月満期	16,387
合計	54,159

買掛金

相手先	金額（千円）
理研サービス(株)	344,519
国際計装(株)	313,919
(株)理研計器奈良製作所	295,031
(株)エピナ電機製作所	182,723
東京ミクロ精機(株)	135,254
その他	1,889,728
合計	3,161,178

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り及び買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL(当会社ホームページ) <a href="http://www.rikenkeiki.co.jp/">http://www.rikenkeiki.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
4. 単元未満株式の売渡しを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第104期)(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

平成22年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第105期第1四半期)(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

平成22年8月11日関東財務局長に提出

(第105期第2四半期)(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

平成22年11月12日 四半期報告書、平成22年11月15日 確認書を関東財務局長に提出

(第105期第3四半期)(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

平成23年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成22年6月30日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月29日

理研計器株式会社

取締役会

御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中井 新太郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中原 健 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている理研計器株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、理研計器株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、理研計器株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、理研計器株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
  2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月29日

理研計器株式会社

取締役会

御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中井 新太郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中原 健 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている理研計器株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、理研計器株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、理研計器株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、理研計器株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
  2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年6月29日

理研計器株式会社

取締役会

御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中井 新太郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中原 健	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている理研計器株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第104期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、理研計器株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成23年6月29日

理研計器株式会社

取締役会

御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中井 新太郎	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中原 健	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている理研計器株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第105期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、理研計器株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。